

此れ也しんいなるま話しんしんいなる
ゆ彼画工の需ひましくいなるま話
つ幸あふがせのんくハうは海とるま話
さゆあはくことこりるわさり原しはた
あまはくしんい

文化七年十月

富小路三位刑部卿貞直卿

勉
貞直卿

諸國產物集就矣不圖速脫稿不是自力巧致
 咸憑衆人之力也僕也非力行以可卒業者嘗
 懶惰亡賴加之以無學不文口訥不有祝鮀之
 佞容醜又無宋朝之美系竹歌舞之技不曾記
 無敢可稱處纔勤畫事以糊其日日之口而已
 何如有前世之好因緣在四方君子不顧僕拙
 以可命畫役還近來將編此集而請諸君作
 畫則不否其鄙陋之需見惠賜焉是即好因緣
 乎天幸乎更不識手舞足踏云
 文化八辛未歲仲冬 如水亭東野識



攝津國美
 也計毛



住吉

遙か
山城さへおまへのをほけ
えりゆふそむる

津守朝臣國礼

任のえの巻うつ波の
うち終りに神代祀



なつるあらしお糸

加茂季鷹

鬱蒼松樹翠烟籠
四廟巖然鎮海東
白鷺高飛帆影外
和光忽映夕陽紅

右墨江

柳廬條々美稿

出雲宿祢千家清足畫



霜風千歳松傳韻

夜月半輪橋寫痕

淺溪題

けのゑとけのめかきとやいせふせぬ住むれ松

左海 知榮

住よーやねの下よりまれ海

大和 可翠

夏志らぬ誰う住よーの溪庇

讃高松 漱石

水沖糸や柳煙小光る廿日月

浪花 龍龍

いはとも戸ひらぬーまをまほれあひらひら

鳥花雪頂弁 桃

とんてーとあき

誰うきもえよおよぬととけあハ

子種堂 燕子花

おもえーせうまーて

何言へし潮子の溪路ー白塔うもえき

夏松の 百合

とまののひの海いともふらてえよたか入拾

糸雲

住名の汐子海のまほーとんてーいらまてかうひい貝

子行

三日れ海のまほいらー拾ふー日新し拾ふ

柳意

拾も神のむられ家奴はて座はーとーまら汐子海

十載

住いれ拾ふらふてまら人のまほーれ浦

一房

住いれまらうらうらとまら人皆種まて由く汐子海

一葉 一 雛

二日れ海や鑑てとくれの千段より拾はし信をれ仲

河丸

舟にいで向ふき同ふとれ海にまうけふいて貝拾人のと

仁丹

只とせとていぬぬの汐下やゆふふとやゆふは漢語

庭茂

汐下とてかえはまてかみししく産むこととてささる

廉幸

汐下とてかえはまてかみししく産むこととてささる

錢丸

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

槿華

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

魚鞭

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

空丸

土産もせんいぬぬの産むこととてささる

庭茂

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

柳葉

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

錢丸

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

子行

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

走

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

庭茂

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

庭茂

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

庭茂

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

庭茂

魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

庭茂

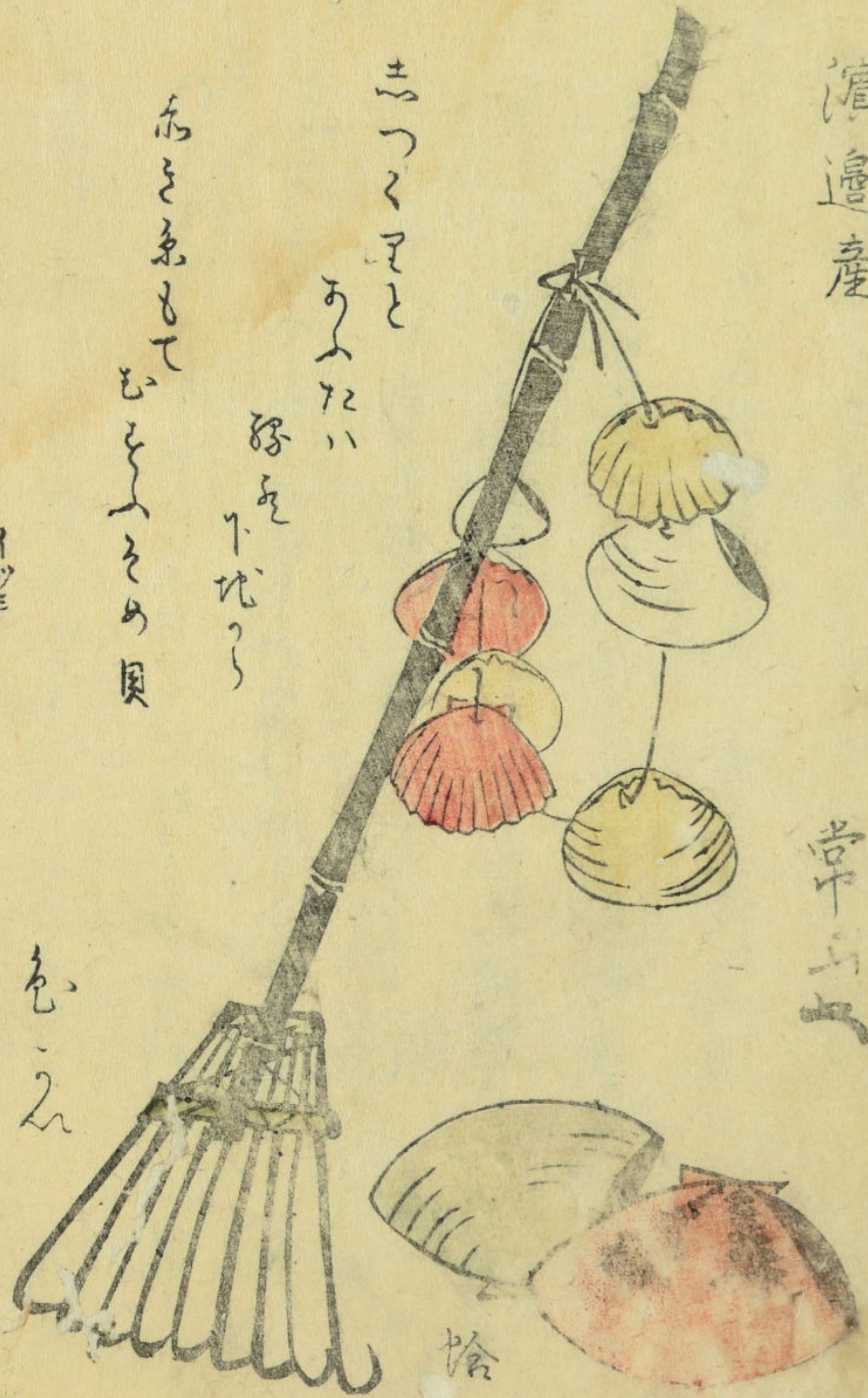
魚のたに拾ふとていぬぬの産むこととてささる

庭茂

濱邊産

十二八 十三三三

常六



土つくと

あふたハ

縁を

下地

赤と糸もて

いとくそめ貝

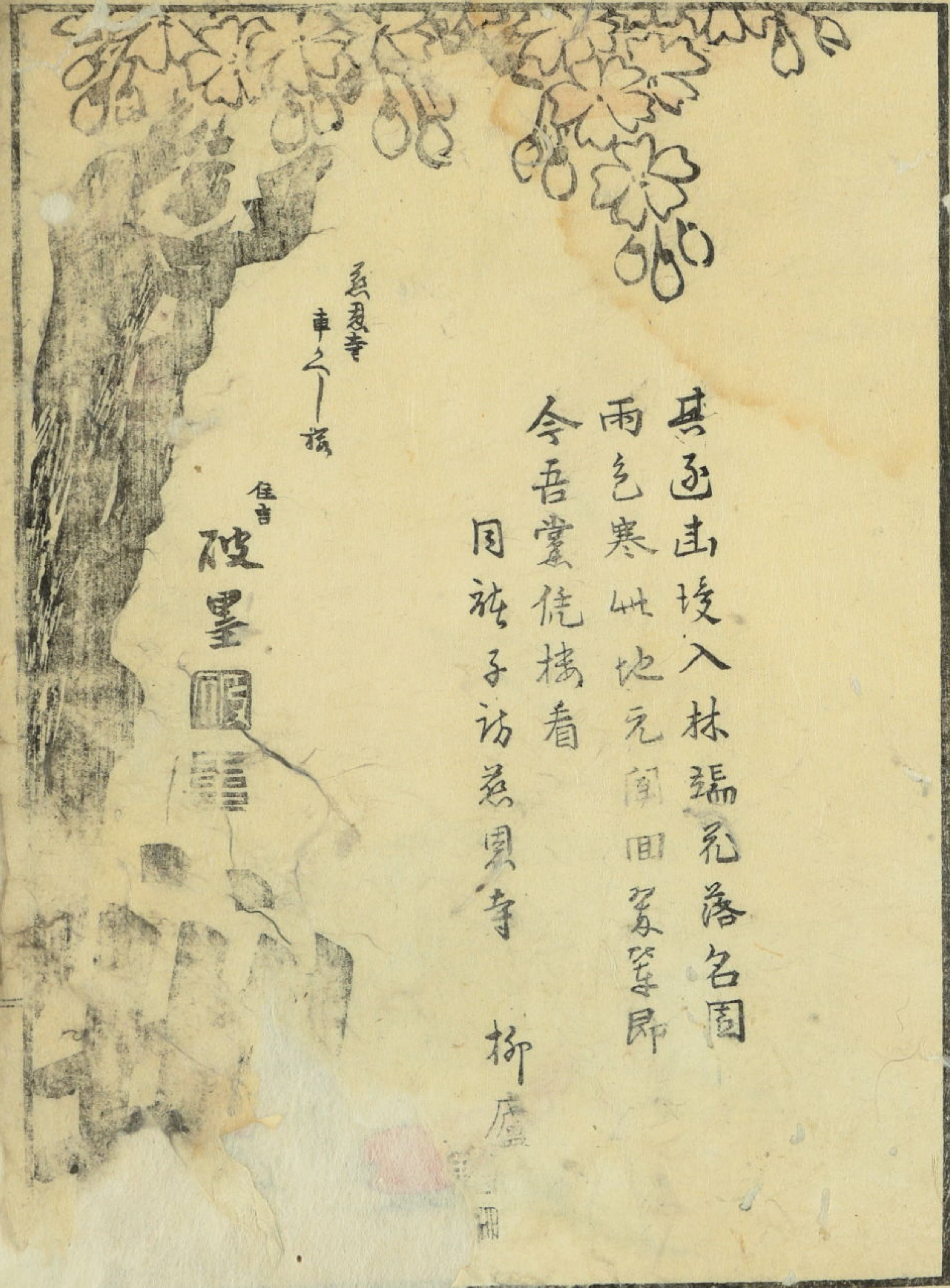
イツミ

細九

色

色

蛤



長夏寺

車之ノ核

住吉

破墨



其色出埃入林瑞花落名園
雨色寒此地元園回翠等歸
今吾裳徒接看

同社子訪慈恩寺

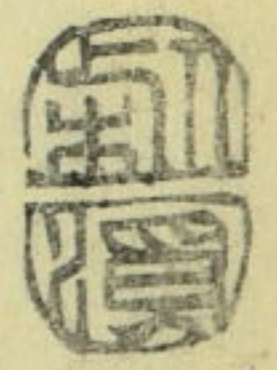
柳廬

冊

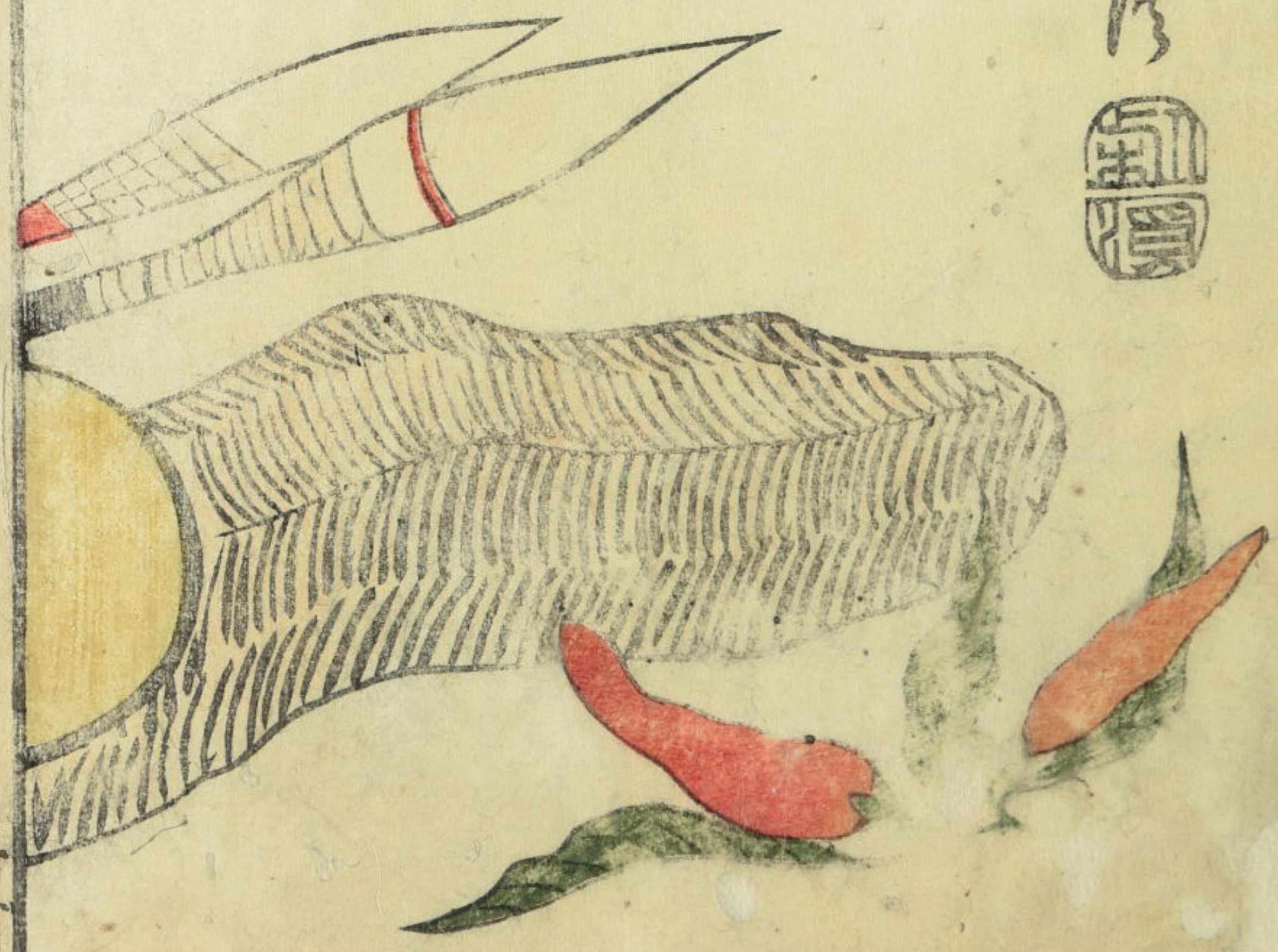
安立町産

赤根

紫根



根引さし
糸 丸
ひや
ひや
ひや



尻張^り秋の實のふくらむか

三不^三弁
桃^皮處

ほうほきとちこ

くくへん^ま椒^かか
根^汁ふつて^をえ

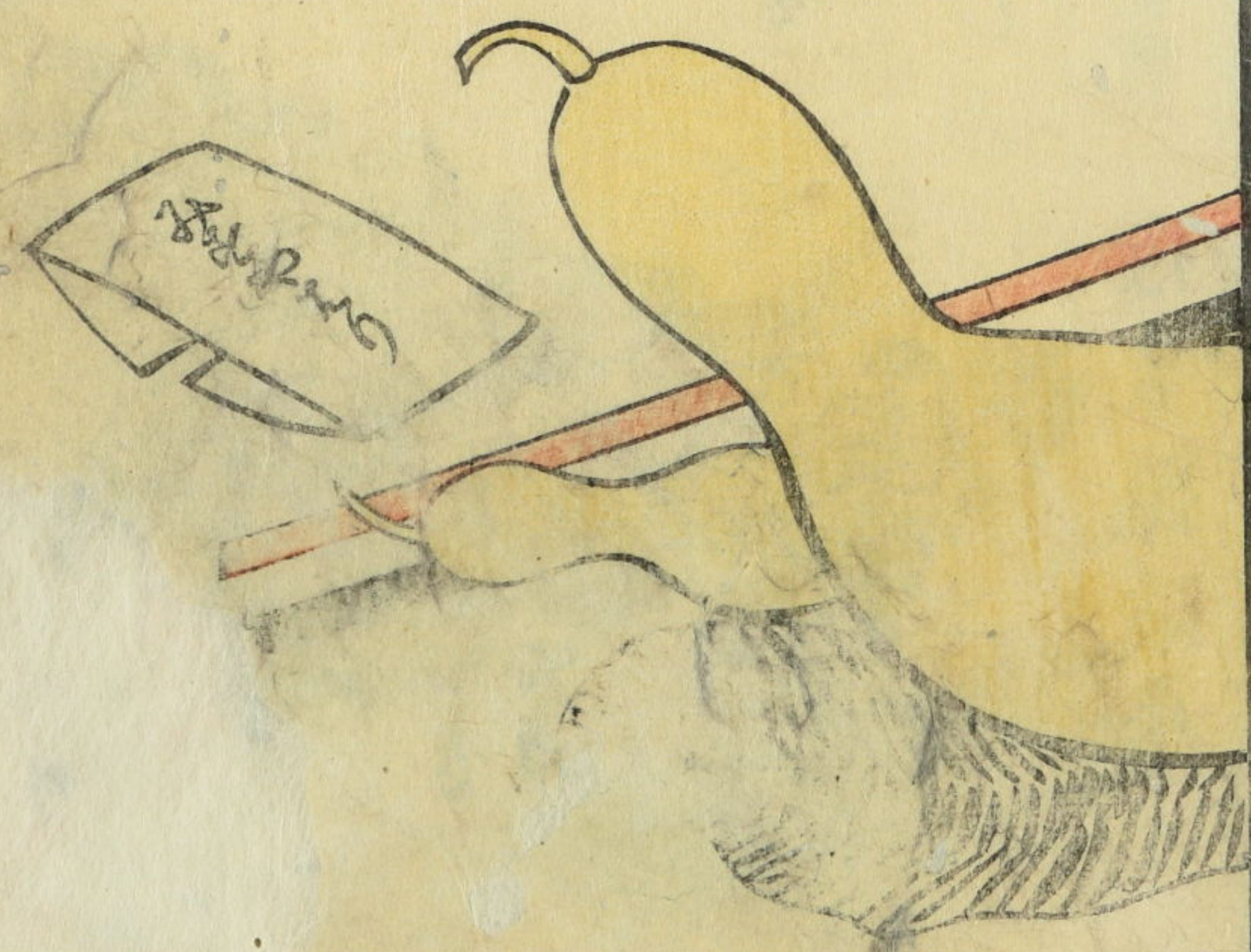
泉^丸
細^丸

ゆり^ふか^と安立町の

いと^とち^にい^とふ^む針^や

よく^通ま^の

蒸^坊



枝のうへ廣いことやう
目のおふふもたひい
なまこやのまら

イツミ
細丸

ひらうても名はひらうて
とこやうもたうくすし

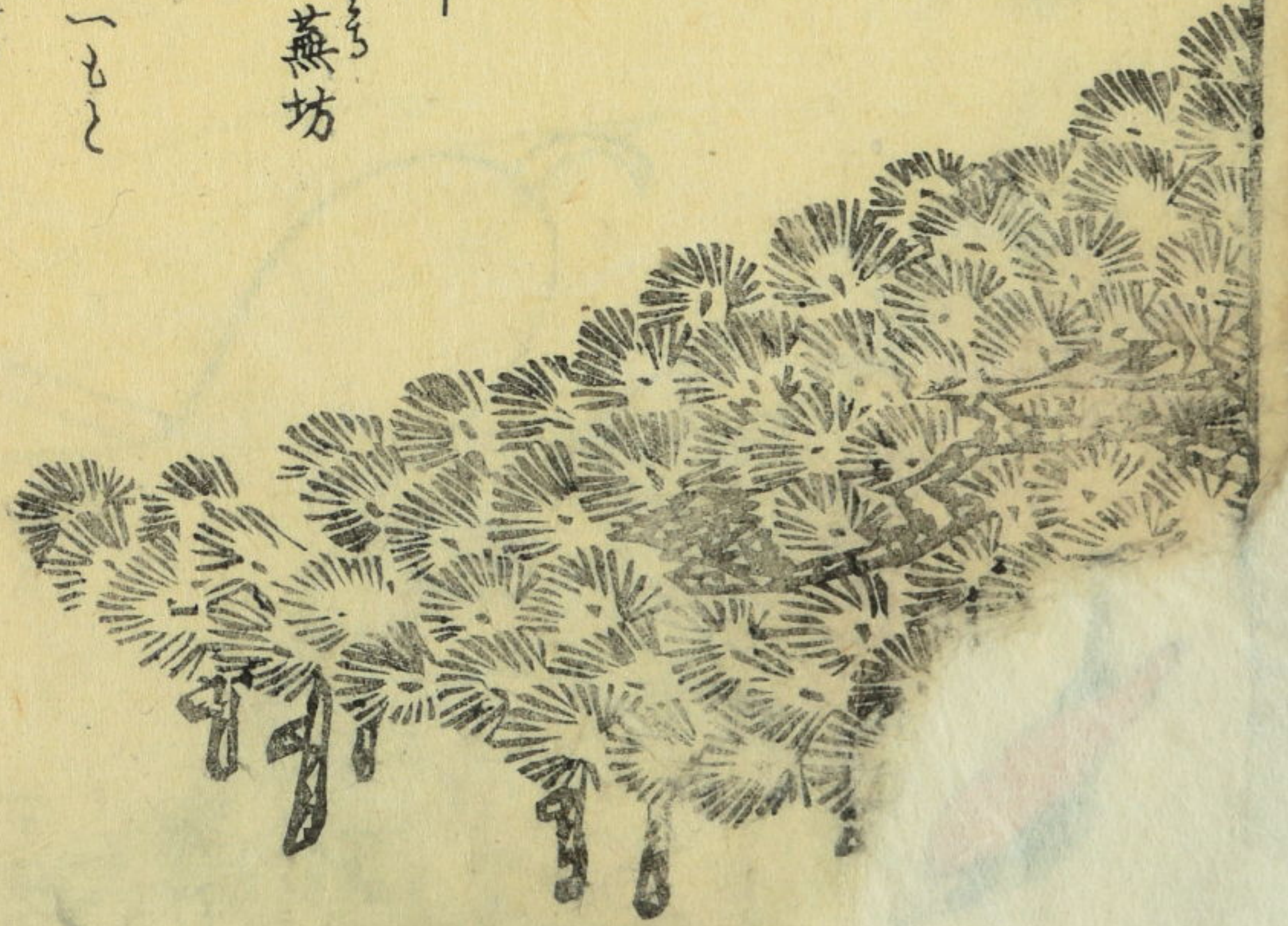
ぬまはやれまら

ミヤコ
蕪坊

おく家も時もとらし
まのこのあふまける松の一と

サカイ
養軒

任吉難波屋



任吉の遠里小形おむとて

あゝ茶はむらりおのまら

サカイ
覺了

純品

茶溪





人形屋ハ佃子はけても巻いそし
 けりてアコウらやまふされき

十二八
 後拾子

彩之のちりねーいろや
 といとぬこま人形屋の
 ちりねのくめ

十二八
 砂角

鎌倉寺の

後拾子
 十二八

徳東
 十二八



長十月とちり向ても

十二八
 舟の着

十二八
 芙蓉隣

夏ぬらハ三小とるま

富士よこもあちいさんま

十二八
 ちり屋茄子

十二八
 随東齋

十二八
 國綾

紀茄

十二八
 松島写

十二八
 市岡茄子

十二八
 市岡茄子

十二八
 知中

十二八



名もきよみずしきほの
はくろとれかとの細工の

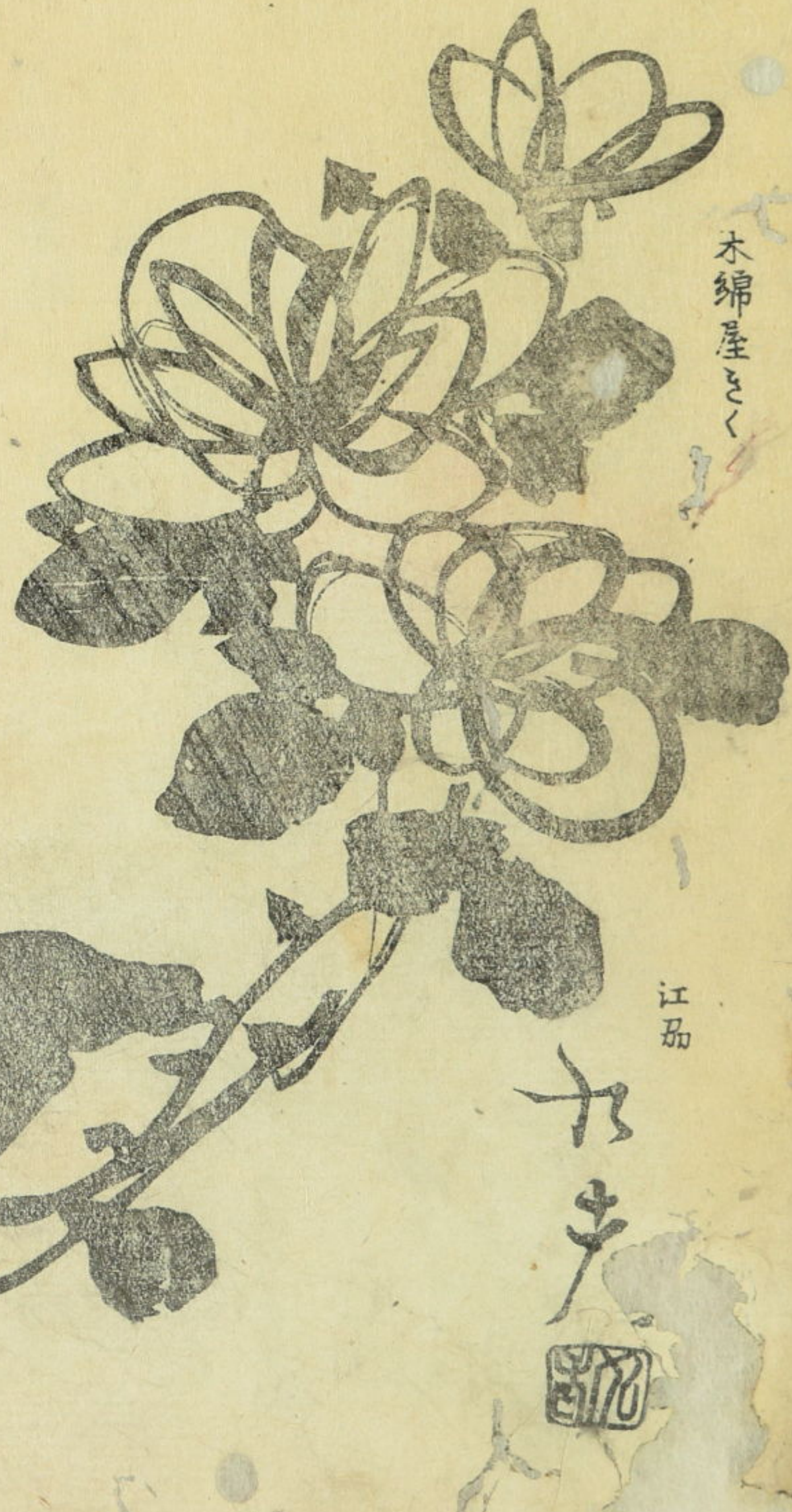
よハ
須山鬼澄

高津はくろとれ

源七屏山画



木綿屋とく



江島

九



いとよ

よそのふんたるおそ

葉の中ても毛糸をたさ

十三

不仙

くしや鏡の
ままに
ほり
きせり



藤原の仔織ハ
葉又のふもふ

唐
あつち

まろあんの
まろあんの

あつち
あつち

車
延



百合
百合

ハ
ついで
ついで
ついで

仲風

赤地
赤地

あ
の
字
樹
ち

庭井

讀品

竹坡



寶樹寺

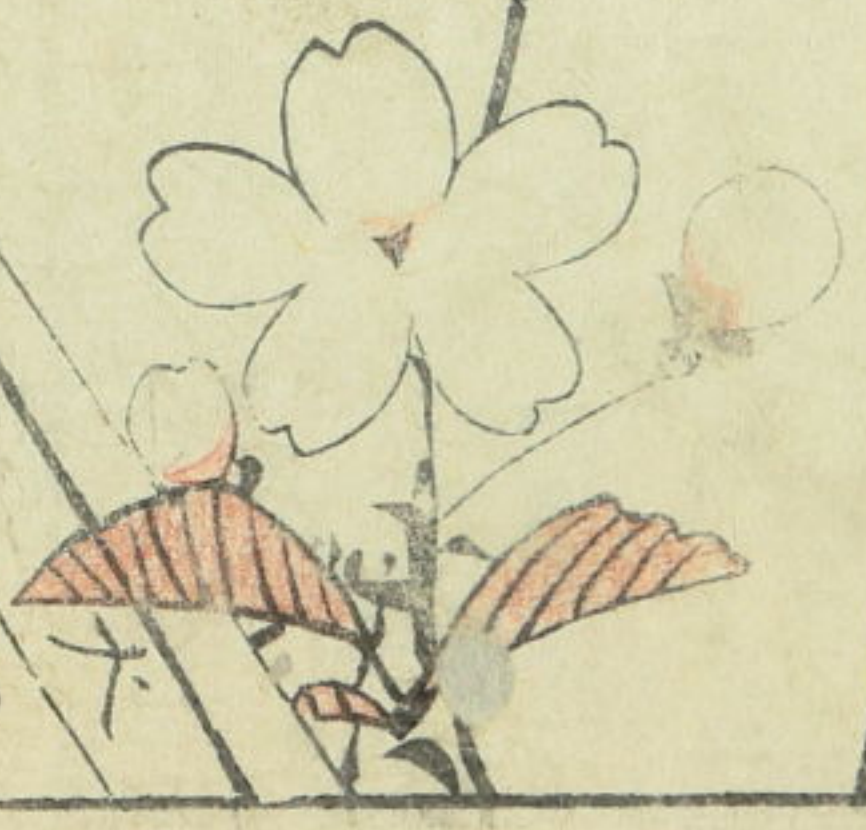
竹坡

能雪三臟疾福自
此中生佛室眠回
慶早聞搗藥聲

宿
吉野氏仙龕龍作
七十八天龍挂冊

およろこびえまはるあき寺の名れ
ふかしの花のまゝの浪
空丸

調中一粒丸
佐とらまう
あいらの戸
あき寺
東岸寺



ひらの
あき
あき

味ハ是天満大根の香れもの
となく秀ねるなやけけりも

不仙

かの玉の人よ
えせとやけの玉れ
天満とらまう
ほ〜と大根を

力丸



于大根

天祥花

サヌキ



時 嘉つてはうす上よと
 ありゆくはるひなして
 植木尾持十郎

十二
 桃苗

天満植木



東
 天満園
 印

味らひもよしはほむよきたうく
 うらやうさうさうねはらふ葉餅
 めうふ新さうぬさくも枝睡やう
 さうさうさうさうさうせんへい

山
 杖

不
 仙

てたやま小

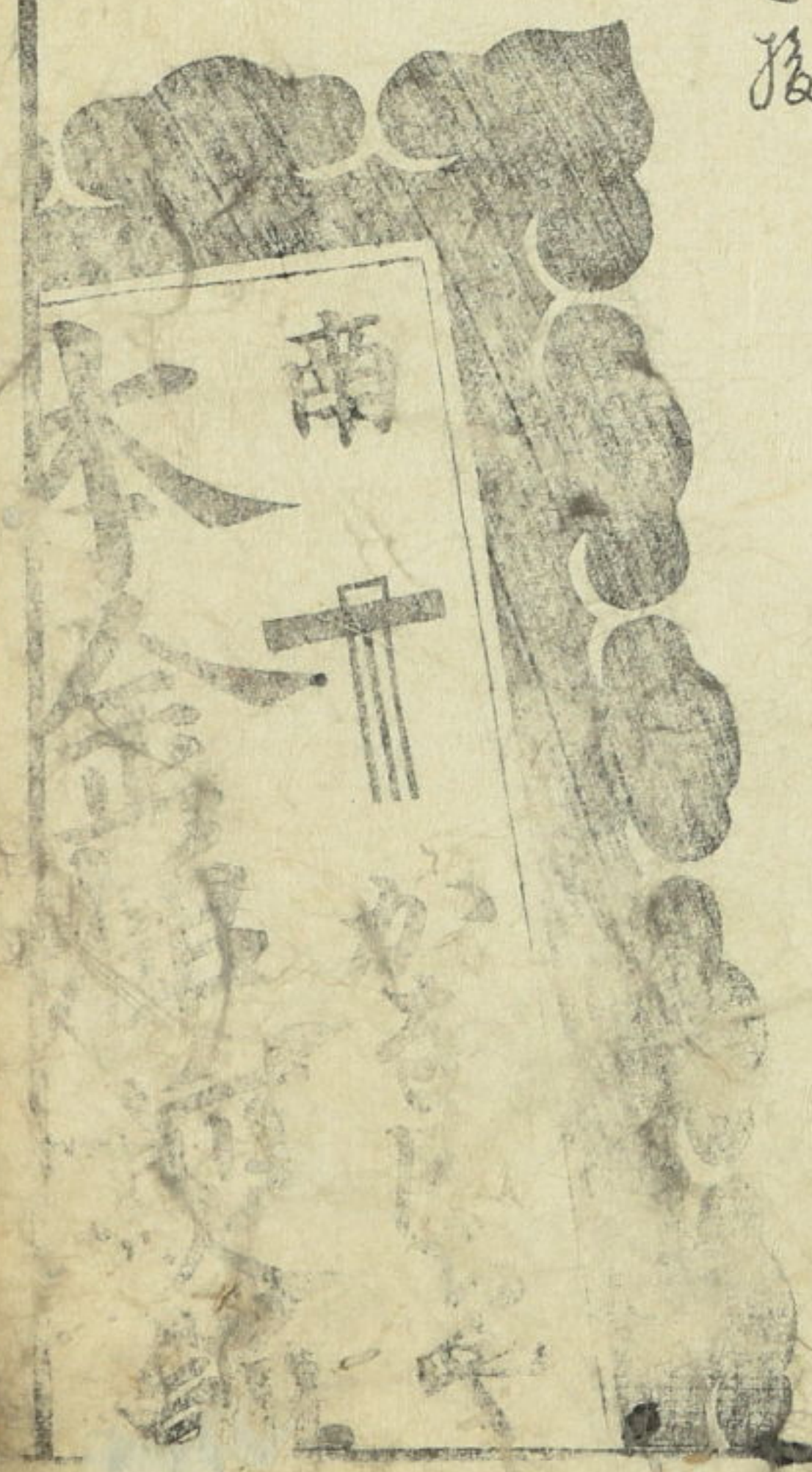
世に流のそく
 玉後

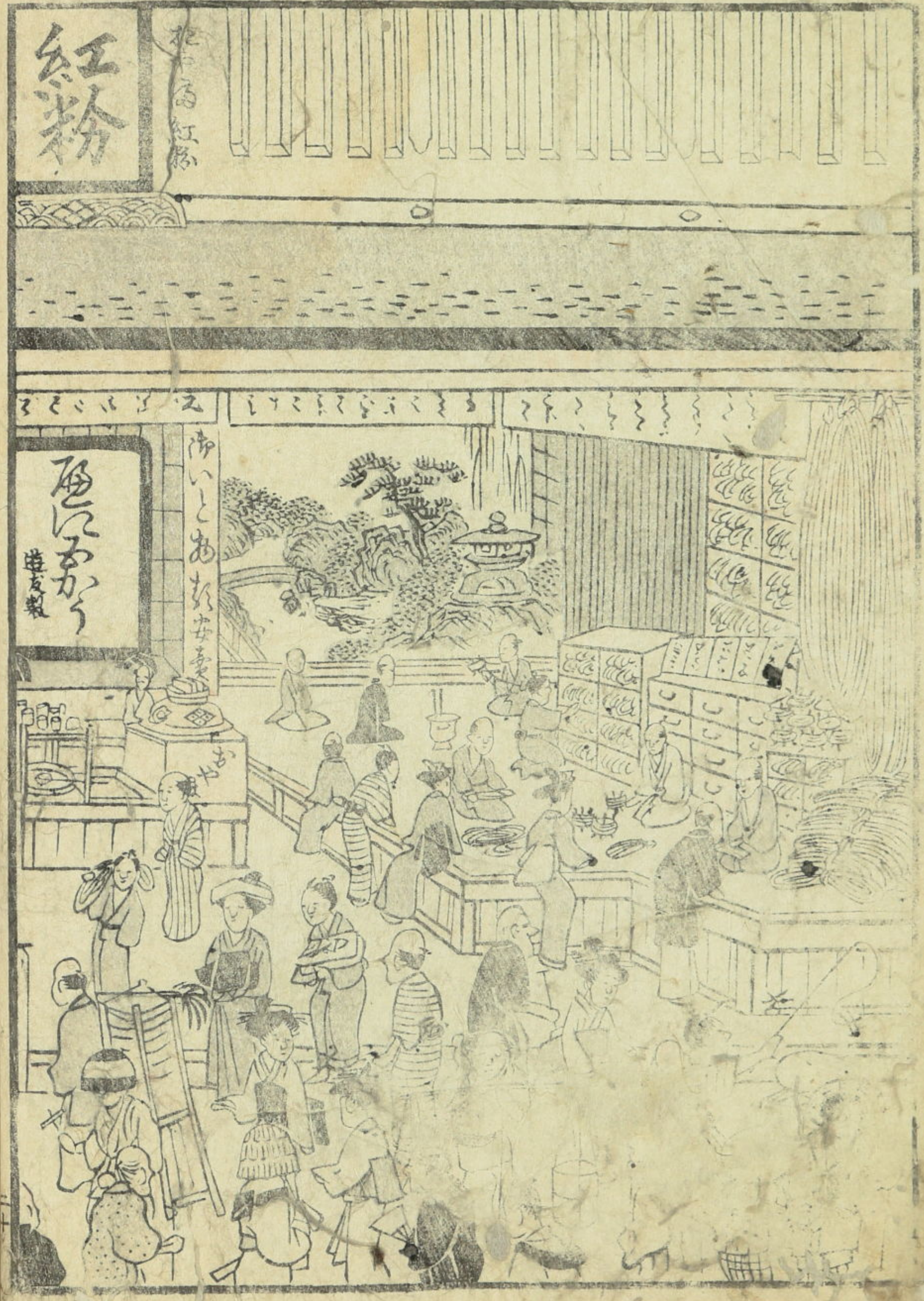
さめかまらや

くまの

うらひさ

たう





紅粉

魚にかき

花の紅粉

海いとあはれ安楽

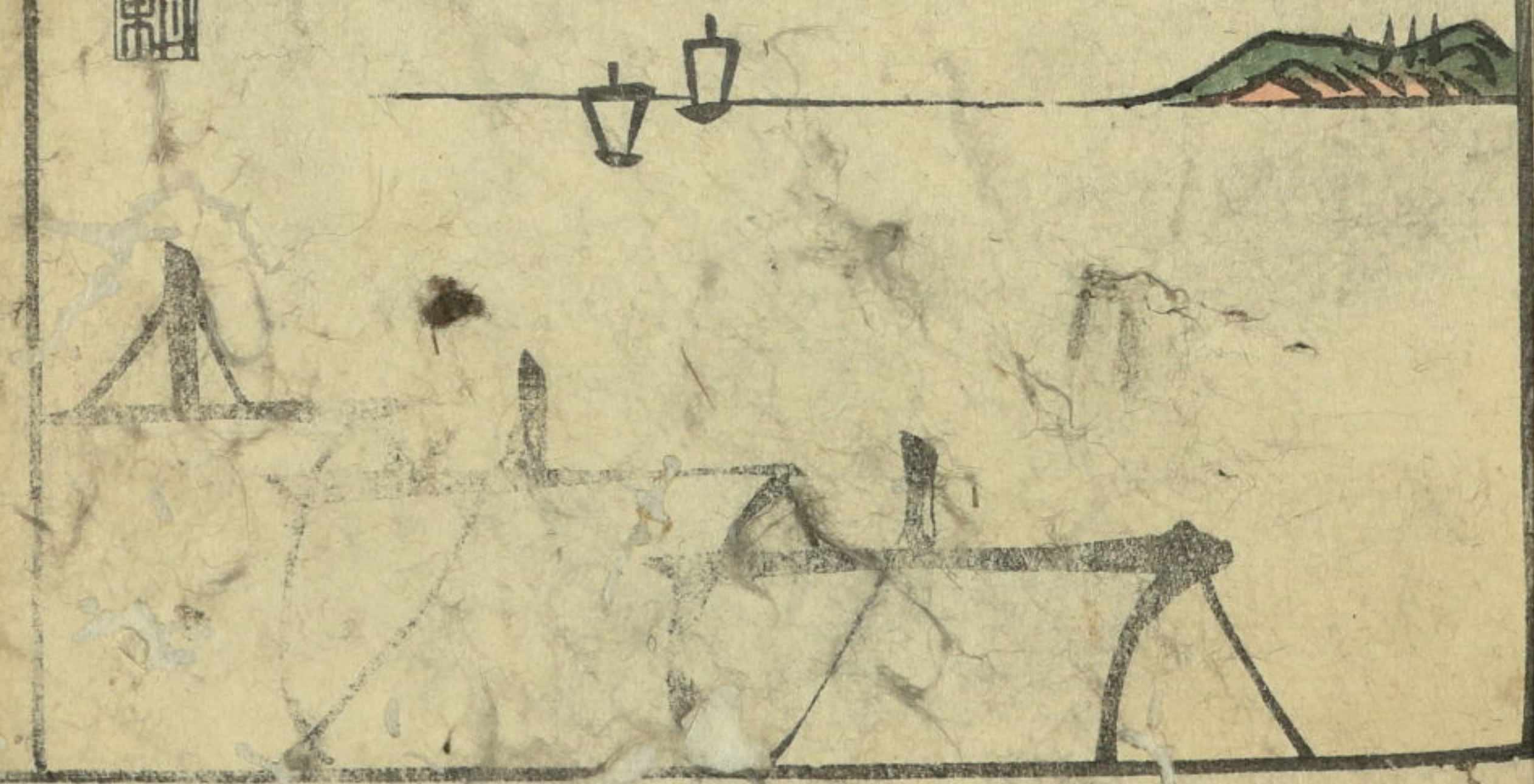
造り

漕うへまおれ出るふねもけ
 らまよきけと難波の湯をたよ
 覺了

難波にふすしと揮合ふりふね
 さくの尾ふえちけのかい口
 浪子 鉄格子

江の月や帆柱並ふ縹漂
 津田 魯拙

十六
 東渚





青葉がくさくさうせいたくふくとせて
 ちんちん〜とねまけいは揺

休花高
 寸松

いぶさ〜

良花
 山



日のあつは
 休め
 大根由

宮前大根

赤庄本

吹田くいの

浪速
 文島



河内

葎画

大玉のめくも深紅の

霞をいそいで

いた

あめりきこ人

浪花

船丸

小笠といひ

あや日なまの〜因ハ

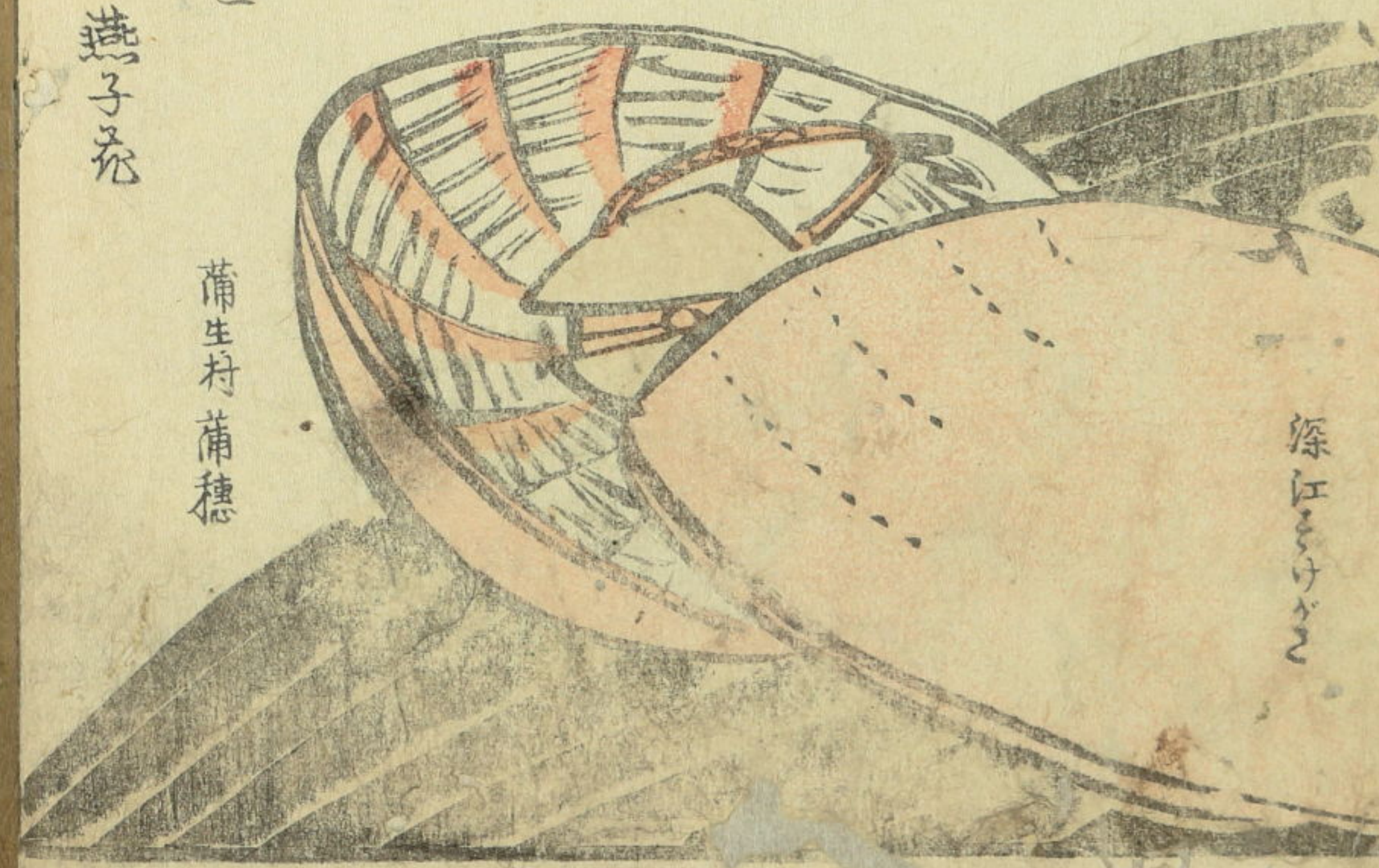
いっいよのてこあま

十二ハ

燕子花

蒲生村蒲穂

深江のけり



たきもえよ

生田の振

こもりねり

まどろひらと

いひそふもの

浪花

ト竹

東芝

藤原

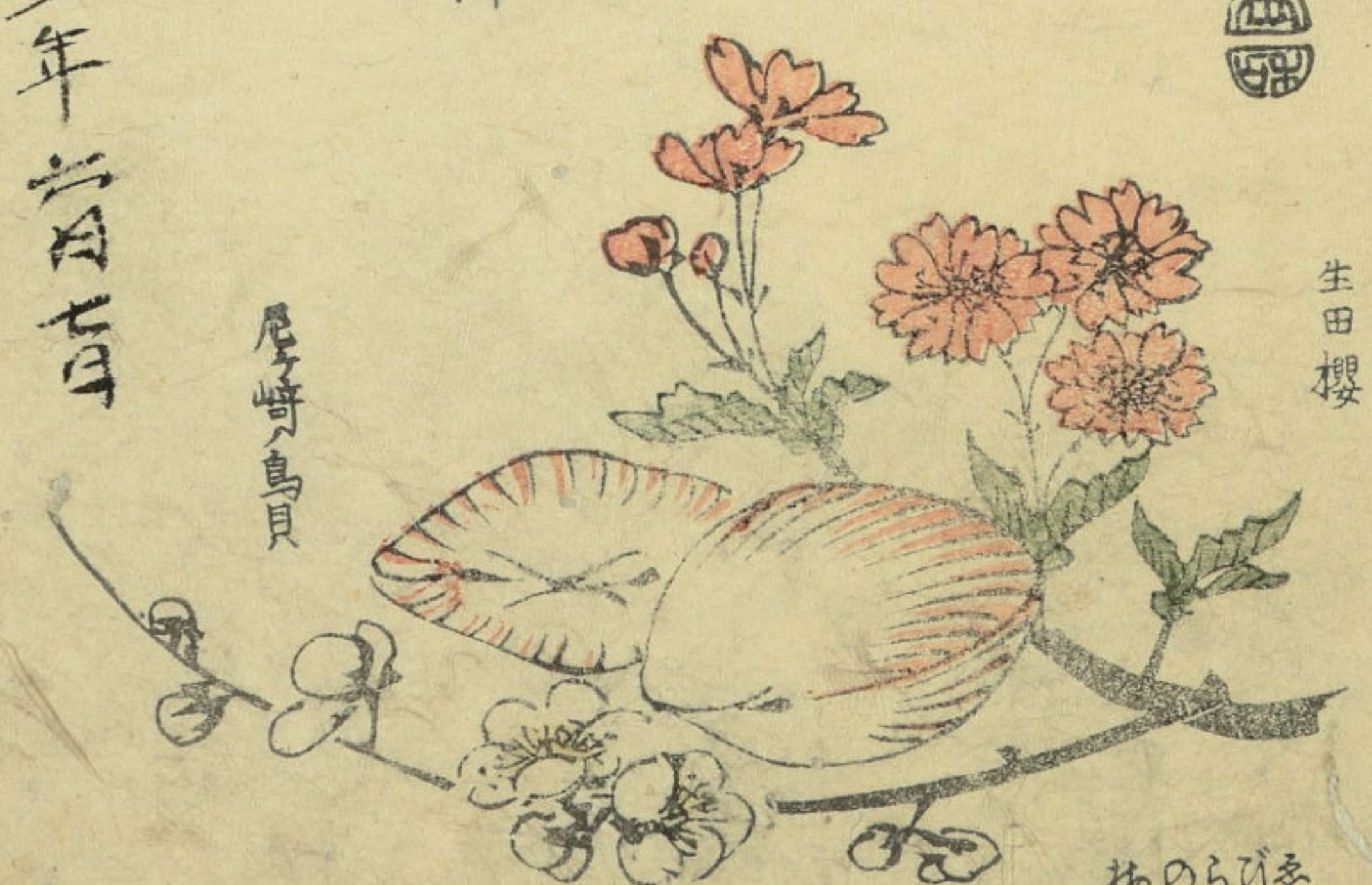


生田櫻

栞のらびえ

屋崎鳥貝

明治二年六月七日



江戸

奥類姫



板うん刺いちり競へて今とあ
いけい伊丹小ふとほいふ

ナニハ

鉄格子

そま〜小文極遠る牡丹島

志の王代さらハ一見

全

池田う〜造りいとせら牡丹と
さけ小ふ〜ぬよいらの系香

天王寺

燕坊

池田牡丹

伊丹酒



池田炭

平

英開五出香襲千里
素質濃粧雪月之裡

琴鶴主人源梅龜

浪花

石居圓



岡本梅

和泉國 耶布志乃



和田御宇

不言齊畫

破くこと匂ひ紙

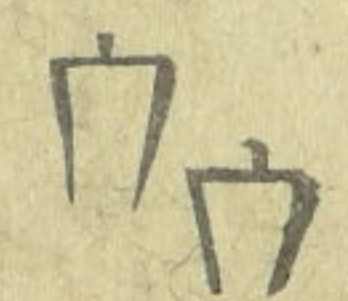
東風のころけり

其流

佐たけと松を志るへに

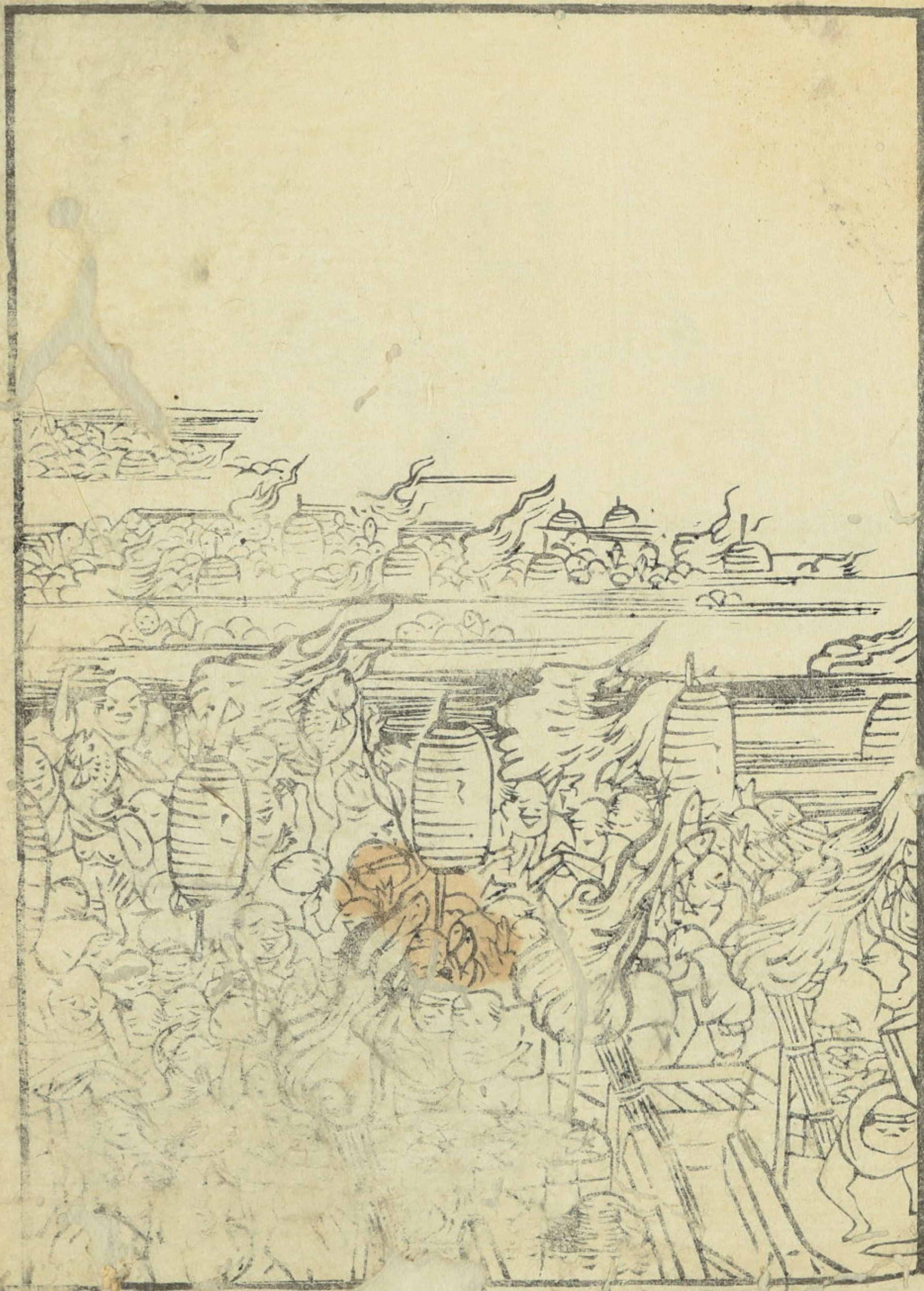
漕つきて和田の

ととれよよとる友舟



サカイ
船と女





堺魚市

さくら網うし人おほき市わたり
 くらねたもさひくし人

真治

サカイ
 心月子



みけやさし

市場の朝あし

東霞

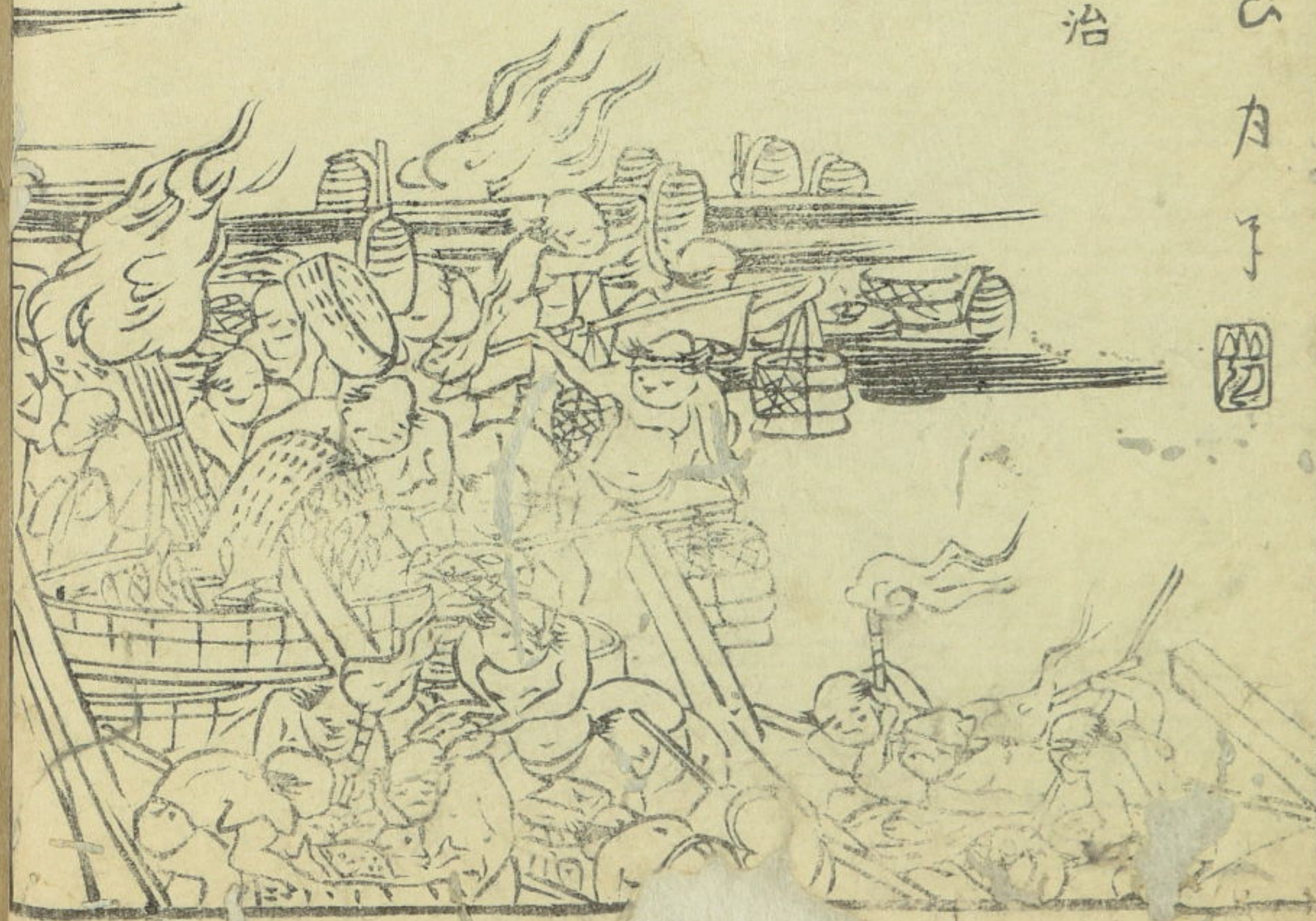
おとやうめ

並不三巻
 桃處

舞とさる

たし

市の穀





サカイ 玉泉寫



金光寺藤

いすもねむしーあふん古まは
みさうふさける藤がまのむ

サカイ 祐之

妙國寺藏
サカイ 均 崔 冥



まつめと

書まれ七

りさ

後 漢

こふ

サカイ 東霞



堀
〃 危丁
〃 後泡

切味をうぬわ
お地のまろくまろく

サカイ
東霞

濱州上童

乃彦
阿蘭

いつくにもうろく人いなん後泡の
まろくまろくの一のさんろく
まろくまろくた よい危丁のまろく味い
は方よまろくまろくまろくまろくまろく

まろく
須山鬼證

まろく
随右舟
巾雅



せうろくふ

昭戸橋と堀海

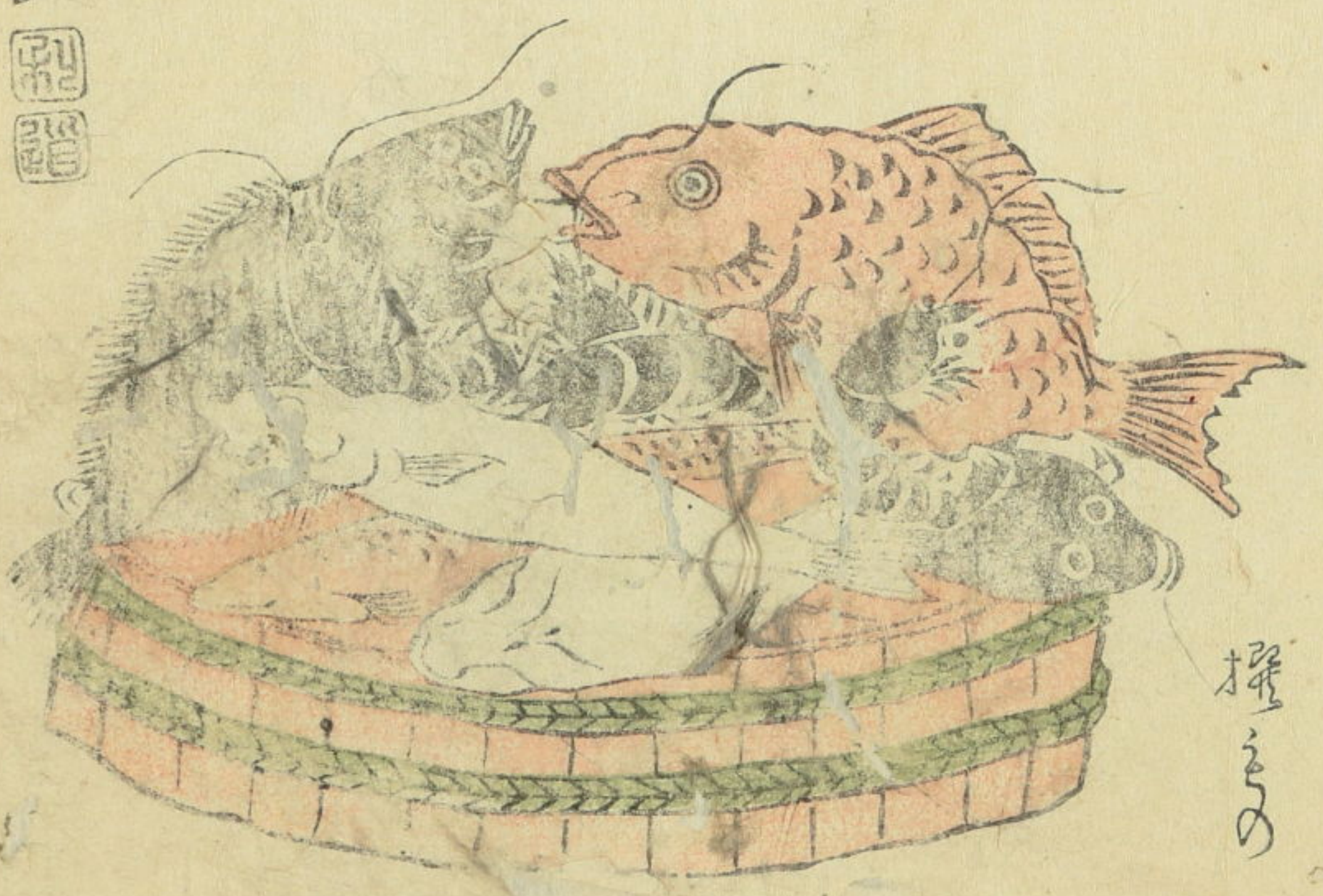
サカイ
東霞

各がくしてろくまろくまろくまろく
まろくまろくまろくまろく堀の内な
まろくまろくまろくまろくまろく

まろく
休養
すね

ナニハ

利道画
阿蘭



まろく
撰もの

お舌の白薔まふ
そはく杖と
せくに松英杖
少林寺竹

少林寺竹

鹿毛雪頂より
桃苗

東洋

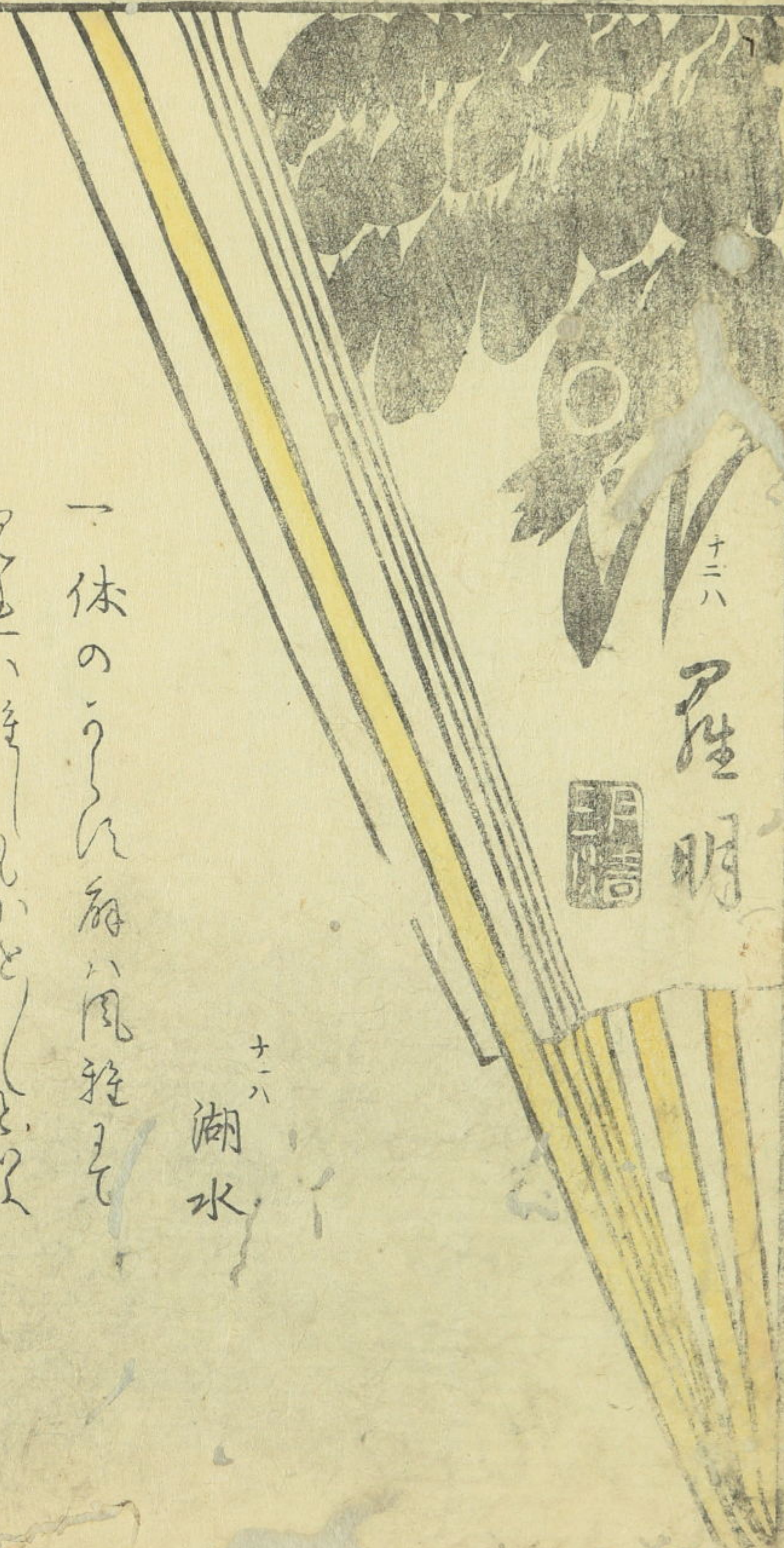


雲れお又啼ぬ鳥は我も父も
生れぬとさこれ一体の草

十一
力丸

一体のうらみ解は風経も
又是ハ後一もかとしとて

十一
湖水



十一

忍明



舳松村真山

戀^{トク}尋^子来^テ見^ヨ和泉成
瓜^ハ貴^ハ舳^ハ松^ハ村^ハ出^シ生^ル
東^キ去^ヤ美^モ濃^モ皆^タ雙^タ脚^シ
就^レ十^ハ香^ハ氣^ハ似^テ其^ノ名^ヲ

南紀
松丘

多川石

毒^ク足^リ隕^ニ星^ト化^シ水^ノ痕^ヲ
千^ハ斤^ノ堆^キ碌^ト何^レ應^ズ
比^レ削^リ成^リ不^レ朽^ク材^ト

泉南
東沼

打^ツ舞^ハや^ハ芭^ハの^ハ香^ハ

配^リ了^ル玉^ノ比^レ寫^シ

泉岸
不濁



金熊

赤土

之
之
之



浪花

高^ク木^ノ橋^ノ上^ニ

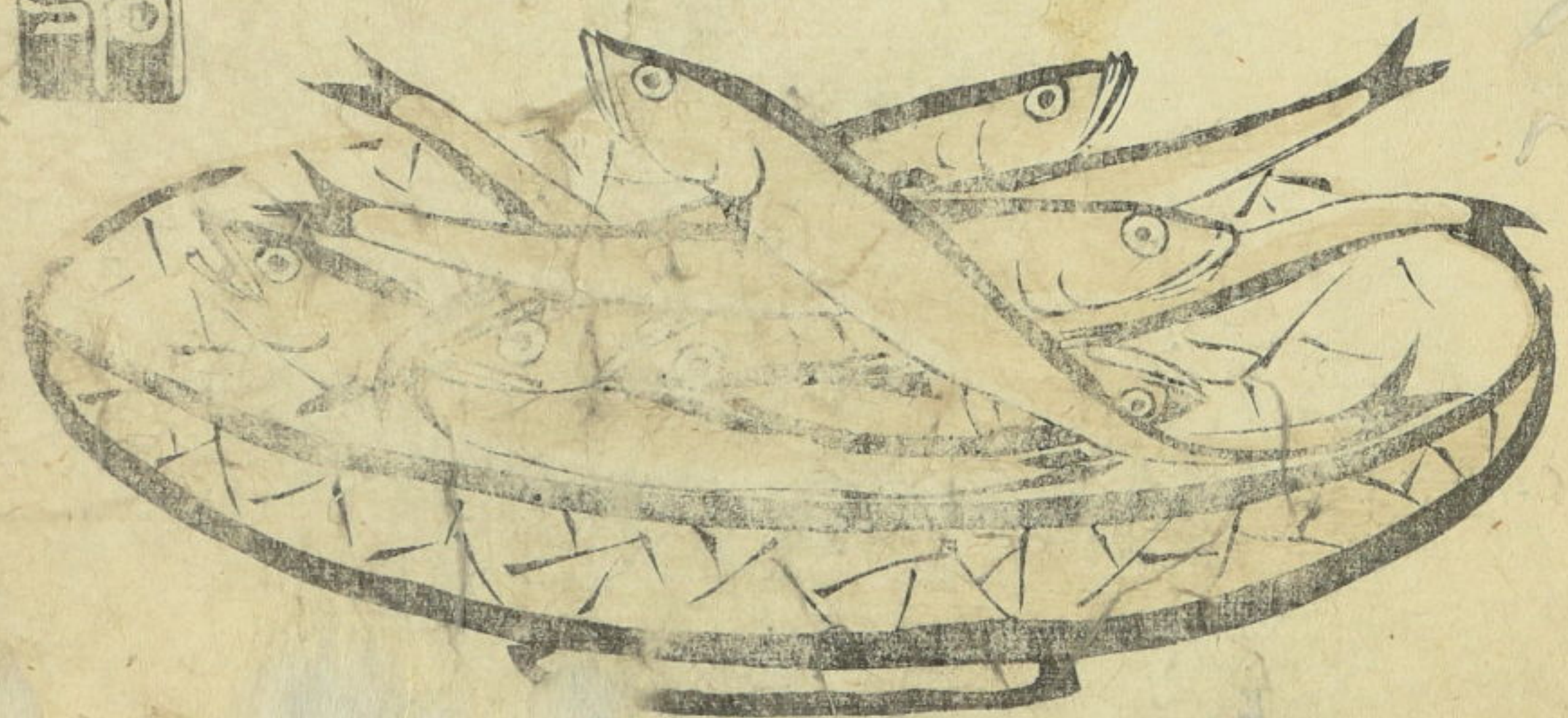
第海秋風下細辰
 鯉魚活潑集清蘋
 非關張翰思鱸膾
 尤美東方青玉鱗

泉南
 清定

鯉魚
俗作鯉非也和名伊波志
 納之鹽曰非志古

岸和田
 いりこ

泉南
 舒嘯



泉南岸

如斯喜鳥

揚毒や

大木の枝の

人たう

泉南
 奇峯

秋の味あふ

うきうきいこいれ炸

飛節

りれと

水より海に和泉海鏡

二龍

鯉海和片



イナバ

五石

谷田斤身魚

離別聖賢友此生似花莊

田家藏稻日專要避糟糠

免之木邑箕

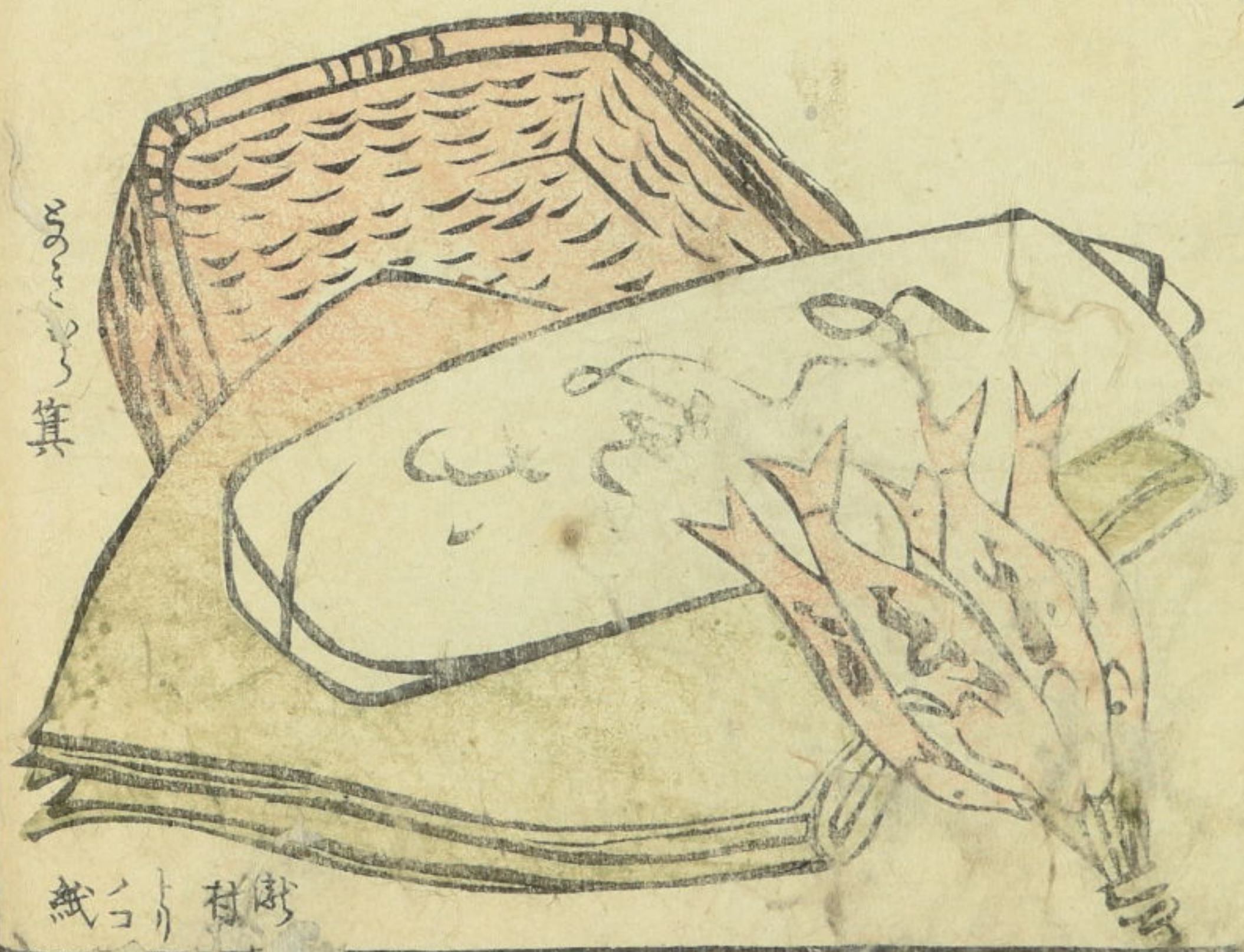
泉南 山芝園題

さしはくともまゝの粉れ水の味

泉南 雪江

をけりの紙やかうそのまじり

泉南 竹亭



免之木邑箕

紙より村樹

岡田鯉

泉南 釣耕

泉南

洞嶋斎画



黑白分鱗色合行此目魚

茅停生美味盤上賞王餘

烈へよハ秋と

美のるやまれ箱

泉南 雪霞

目出川たふ

香山画



泉南

岡田浦小舟漁之場



あゝあゝと

——へて

海のうれ

たまた

~~~~~

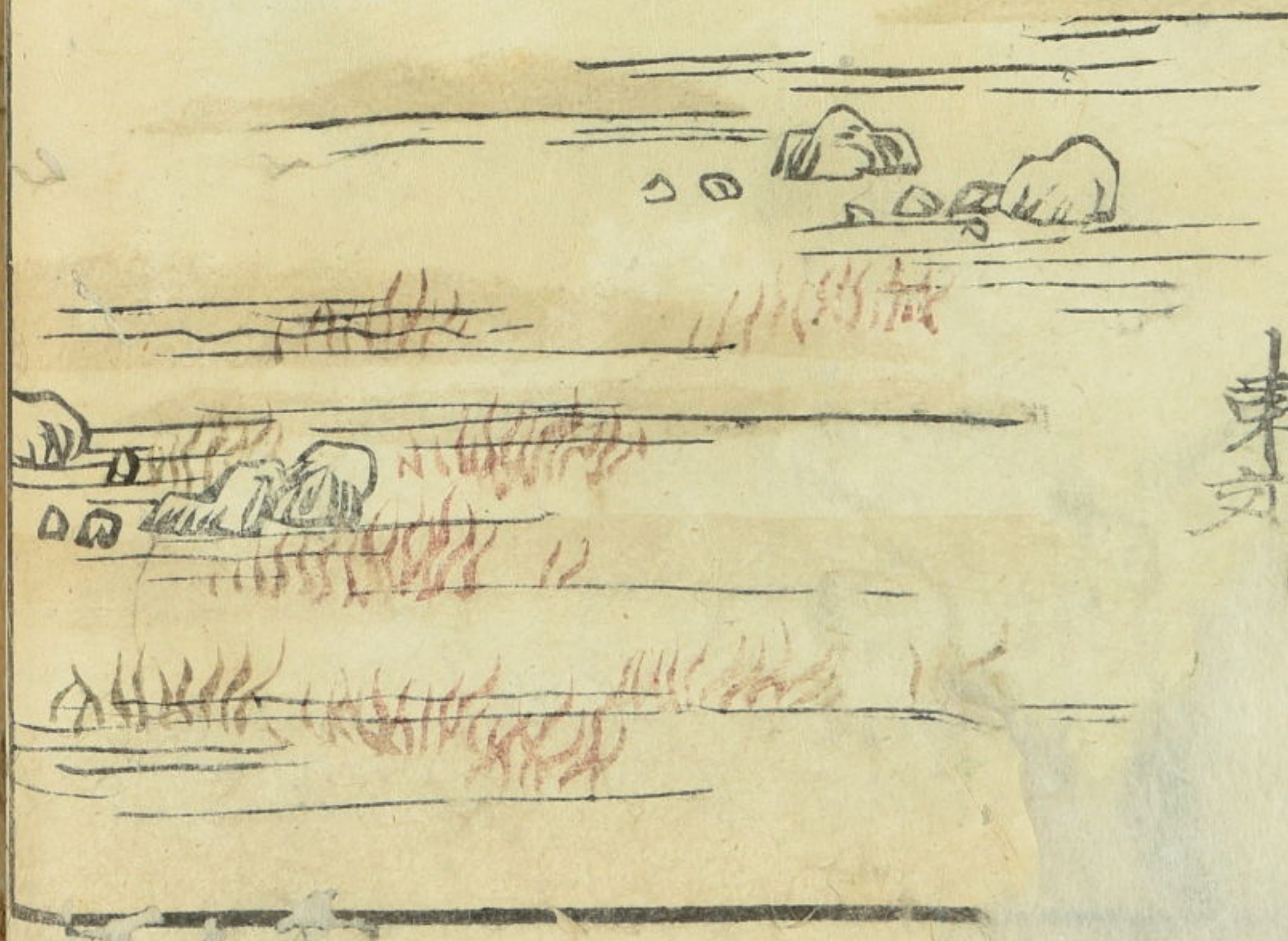
ちぬれ

夕——ほ

山岸和田をぞく

泉南

清々



泉南

東列



泉南 徳斎堂



泉松茸



泉南 景弘

けしきのみち

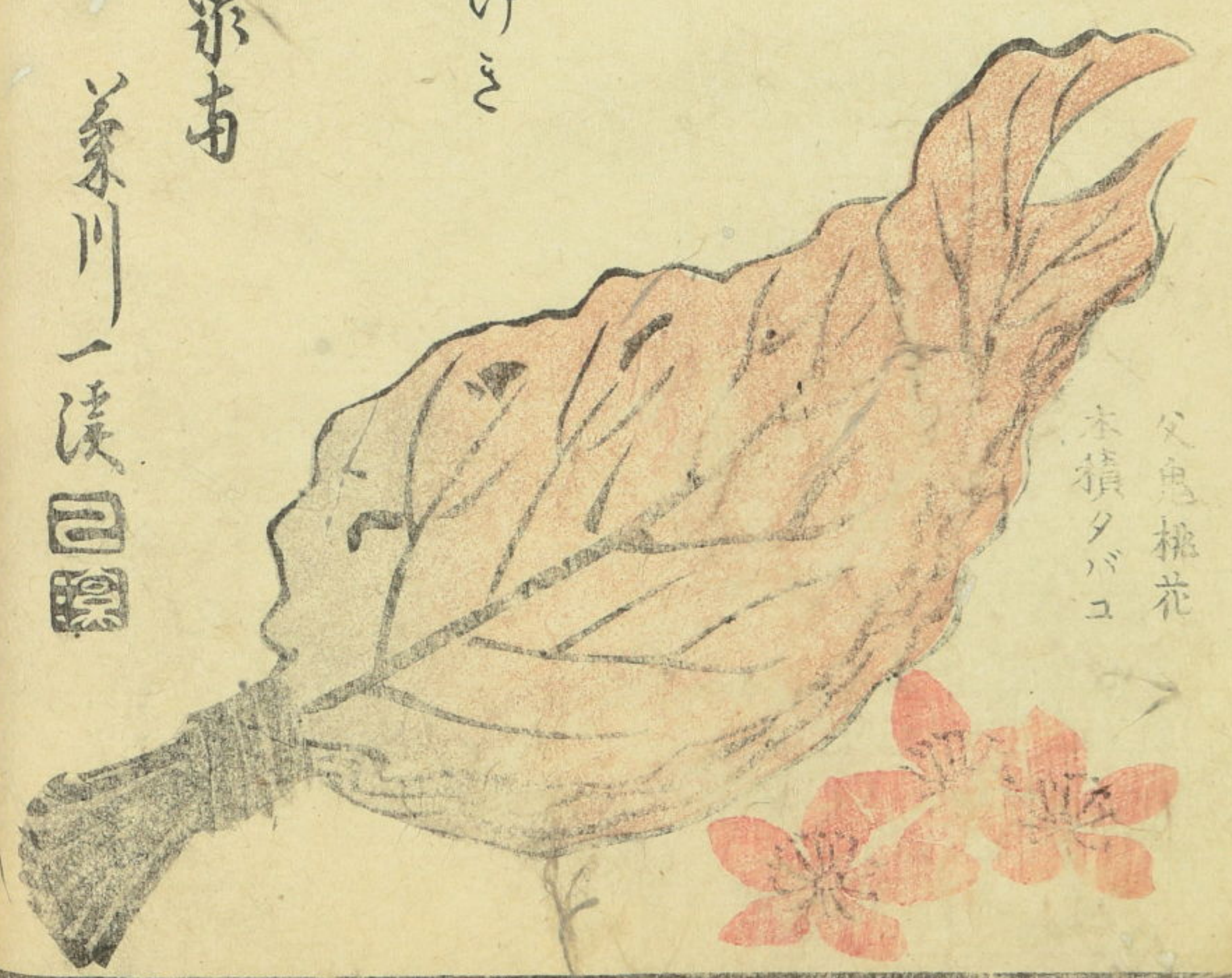
まき

くさよち

のこけ

泉南

養川一漢



父鬼桃花 本積タバコ



也河

内計

國茂

美典



右付田名たる其精堂の主人が不樹本とて  
新とほりせしめりやくとひろり終りとすつて後  
吾人の病よりせし抱杞子丸  
けふいやく志人の子やく業ときく

抱苗



大明太宗皇帝勅方

黃精枸杞子丸

調合所

津田

黃精堂





百里河堤西又東  
蓬窓夢破蘆荻風  
置々朝客鬻羹餅  
不似滄浪鼓柁翁

十六 田勢

おあつりぬきれやせいのつね  
代呂物ハ茶メーいもけ  
くらとんうらひ

十六 朶雲

十六 子健



おとごめ

十六 朶雲

は内通ひの毛袴  
直の言安と

まろやハせん

幅廣き内本袴ハ  
一方のやうに大ねと  
地のはいとも

十六 魚鱗

河加

二糸



葛城栗





河南三石河詩寫



髮切時鳥



たりの出を月ふる山せとてなとてよん

瓶路

至

ほとてき次あはるる生 弱心

大和

河海

くまうと月もあけつて

浪花

綾國

ふとてきさきさき

ふりこりて

ぬいいてたりひさし

浪花

筆丸

さきさきさきさき

あひく

流川やなしくれとてはは

小山も一本まゝの

浪本 砂角

くろくひておこるるの雲

るふももれれたてせん

浪本 力丸

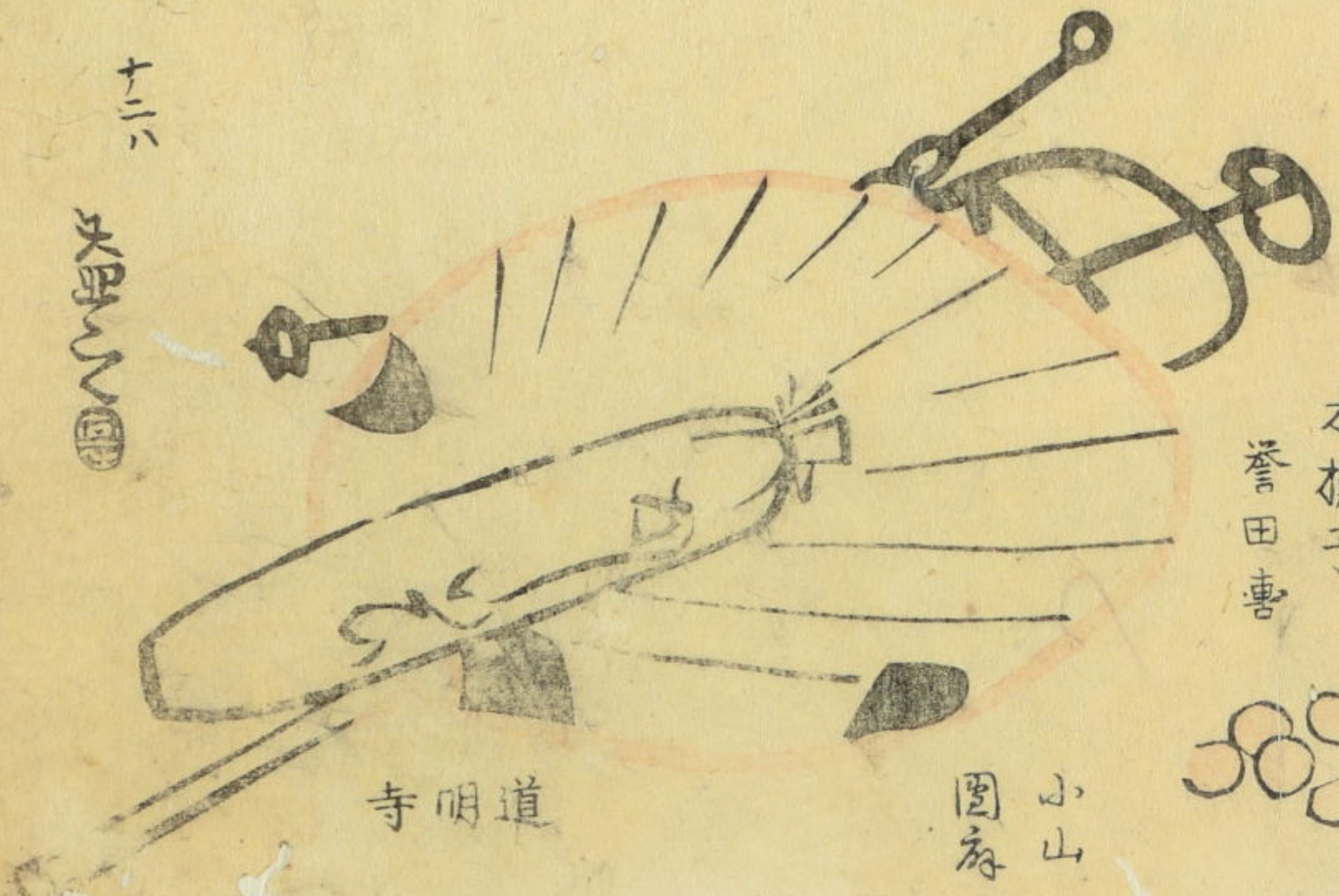
千段や尾し

うらうらあつて

河浦 栗園

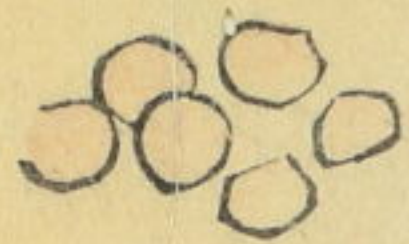
十二

大田



木橋子

譽田喜



小山 園

寺明道





蓮根

守口本根

何処

静古陈入房守



ふれこらの秋はもうても  
炭のいふ

信巴文

炭畑花炭



浪守金居堂

笹丸

辰花

梁山嶽寫園

鷹鈴

名持ハタシ  
久うこれ

天野山

中川たけを

忌ん

あこれ系こらも

天野酒

立部土器

天野松茸



高井田大牧桃



献上りしつまへりて出すふもんと申と譽て賞状、権華  
 檀尻ハ譽田ふとの鈴形ハとんは申といひ申は、錢九  
 富田林葡萄の房より入てされいふふれては、廉幸  
 おも調とんと申のふもんと味ふをりて申は、青峨



干瓢

志のりの  
 牛ぬい  
 十六 可右  
 新樹  
 まま

ひいてまこり、美よと味  
 せんのもつ、谷牛のぬ  
 ぬもろてとむる

浪花金居堂  
 筆凡



駒ヶ谷牛市

播屋  
 金水



名をさしおふくしてみはれも三ふ一の心橋

十二八

醉月

吉世心まゝの夕也いそいでるまおの鏡

〃

大江千里

まゝのまも保てみはれやまゝこゝろをさる小聚入

〃

常成

そらも花もわらひはばや吉世の心はるのまけり

〃

昭府

いほりれある世娘とてうれたふ思ひまはるる雲

〃

田勢

花はね根まゝつらみよれ心てうゝ人存もまゝ

〃

笹九

まゝさうらうらうのほろれ捨申矣

十三十

奇峯

十分れさうらう小まゝの雨

十三十

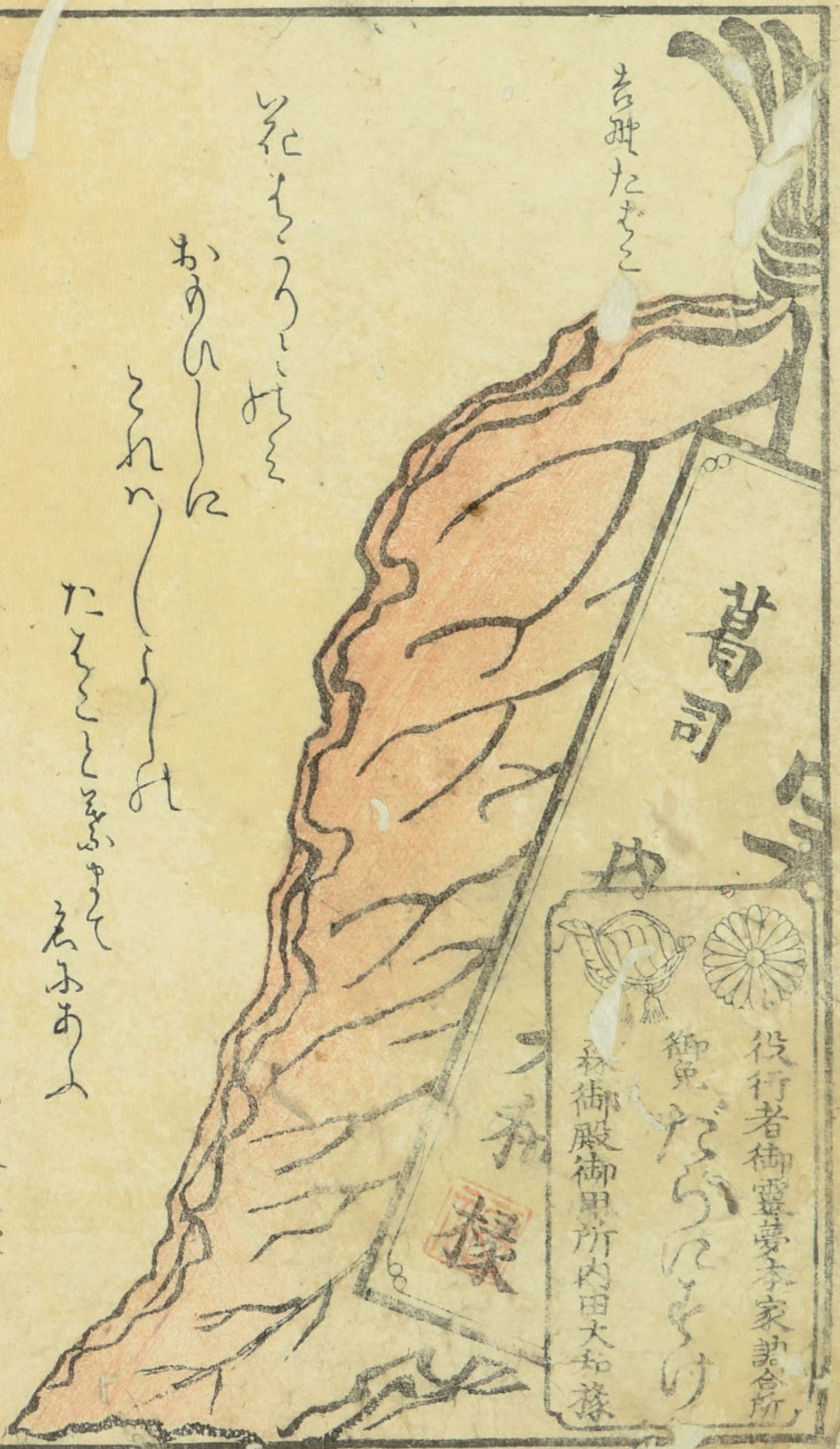
到在

秋の暮一十月ふ里やうれやう

十三八

う浦





吉野たむご

花もつら〜いね

おのひ〜ね

〜ね〜

た〜〜〜

名ふあ〜

葛司



役行者御靈夢家誂合所  
御免だらけのり  
秋御殿御用所内田大知孫

探

信玄金居堂

笹丸



ふ〜ねる星いもあまよ〜川

おらた〜船のほ〜とぬり〜

う〜のたま〜あ〜

さ〜〜〜とけ〜川

ふ〜のや花〜こ〜て日傘

可翠

笹丸

船丸

吉野

萬年

原七文章

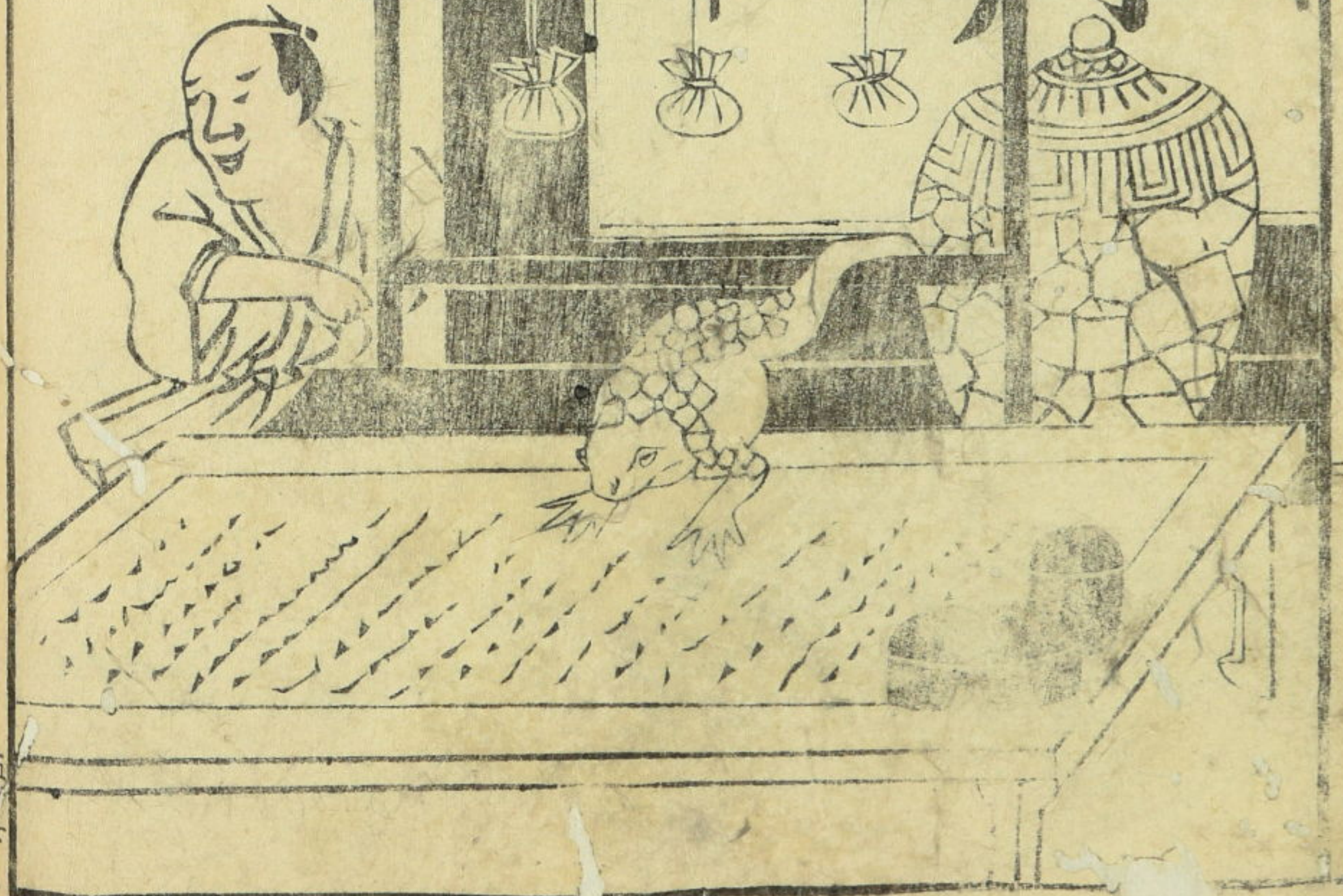
下



和州上市

# 金紅丹

堀内三席



馬車

神仙丹竈物

服得王顏紅

不為千金鬻

救民天下中

芳水題

三

浪花十童

香山





鈎瓶鮎之圖

後御所一年く  
 あちの御をいそ  
 まふらよ一れせの  
 大なるめいほくそし教ふまの  
 ともささるるあそき保と  
 こころしんちんちんあま  
 舟あけさくけつれと御し  
 こけはふたささるかこころも  
 はあをささるこいこころはささる  
 せのおほんあさるるあみまの



赤い糸をとりしつゝあせ  
 流るるれいなりし折はせつ  
 むの折れおれさうりしん

まはけの川

月ね妹脊うま  
 あさひの  
 日ね流

春が  
 ねんねとさして  
 村屋ままた

ちんちんのあま  
 ねんねとさして  
 鈎瓶寸

ちんちんのあま  
 ねんねとさして  
 河井可賀





六田柳

ほの



まゆ柳れまも道くらんあゝ

温苑十種堂

燕子花

こゝのひらひらとふしり

鴉子のあいかくまて

金比呂

琴陵

柳うね

こゝの柳れ

あまのこはれ柳うね

方水

美心のり  
柳うね

万和

語出千本麓太夫 名物鮎屋下市村

於里津氣慕彌助 権太魂膽欺握魚

三貫目金藏首桶 百八數珠在套禪

到今每季成献上 風味芳楚皆御存

右 戲咏釣瓶鮎

服壽叟

あうの月ふたうまうまうまうま

角一

名あめ佐松とてうまうまうま

随古齋

いさういさういさういさういさう

可右

あまものとはたうれる鮎



南都

三輪山

三輪山

村の

素鹿

里

と

こ

五英

ね

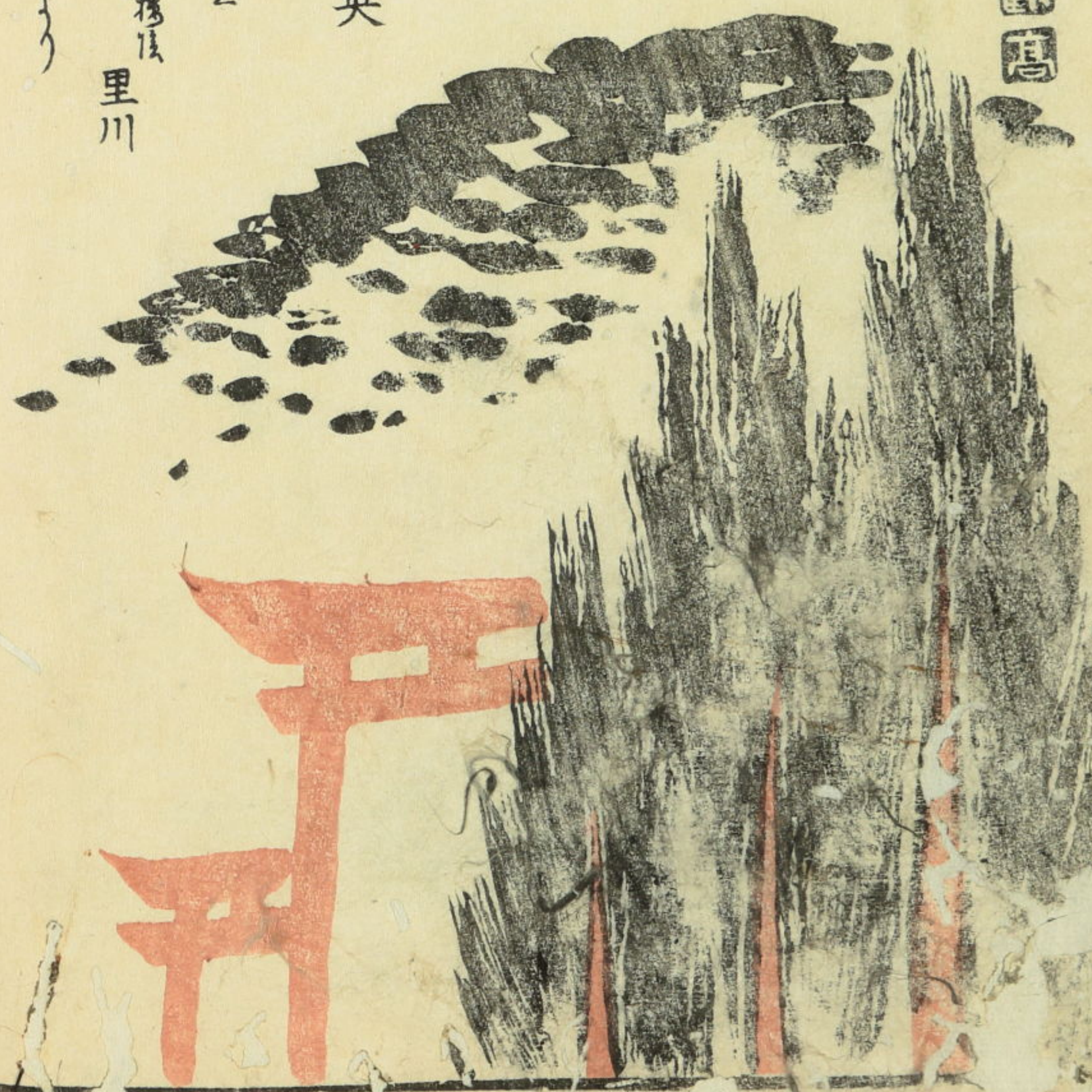
ね

こ

里川

か

か



白雲山生瀨の巻



こ

こ

梅

湖秋

人

代

大



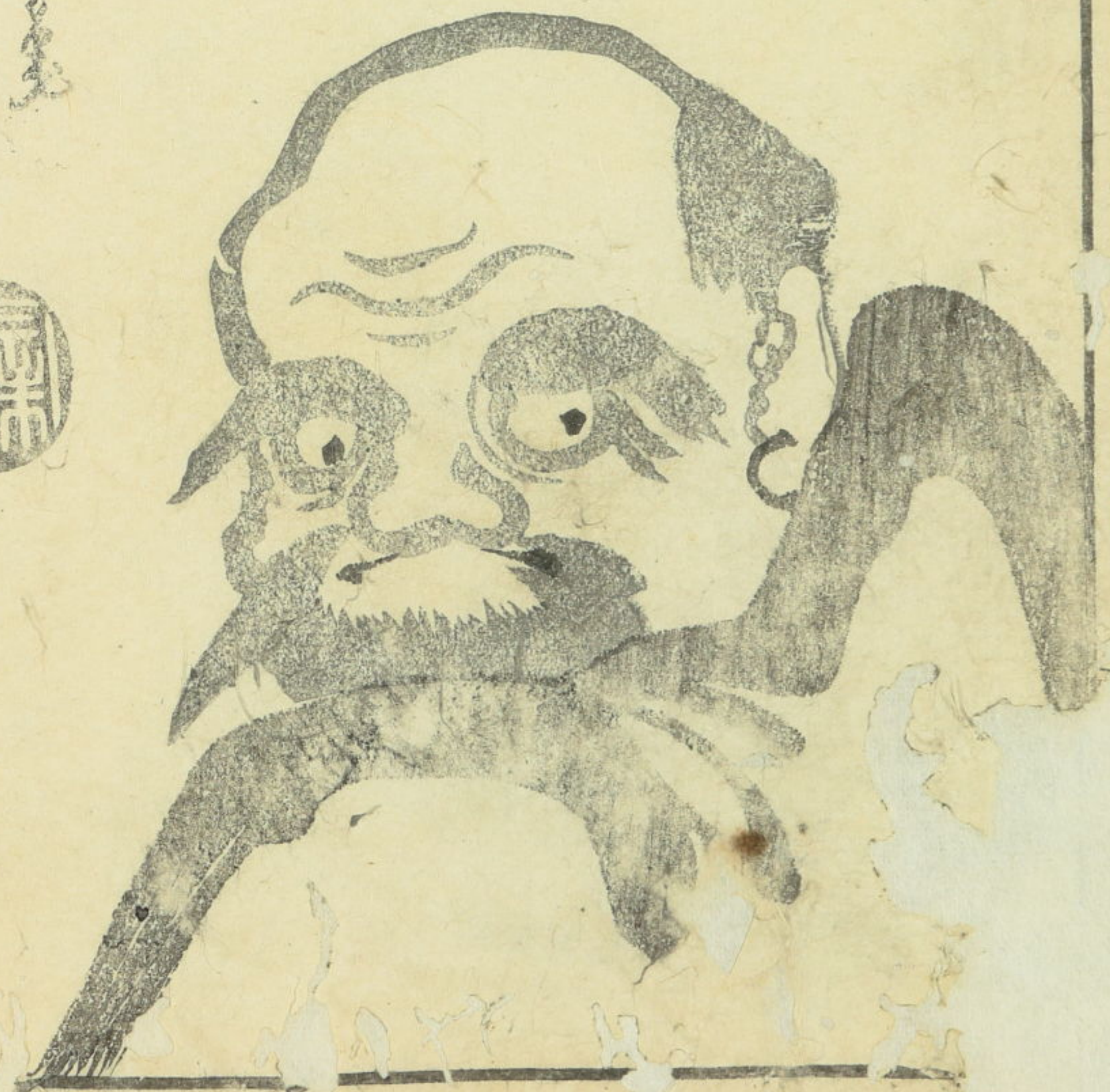
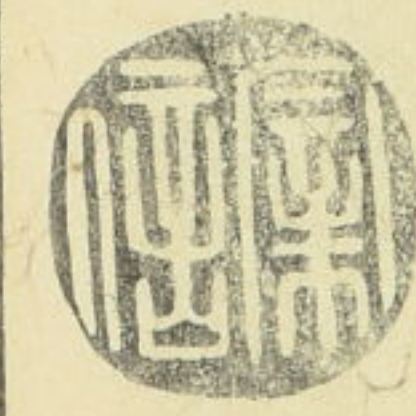


斤岡山

義別上下其儀  
息家親年廿世  
行直仲用神様  
小半何勞持戒

常御持戒

画横



夢之のまれまゝの梅の花

ヲハリ  
士朗

僧正此知まゝの梅の花

コシラ  
琴陵



子珠  
首山

初休寺貫之梅



平治

貞幹

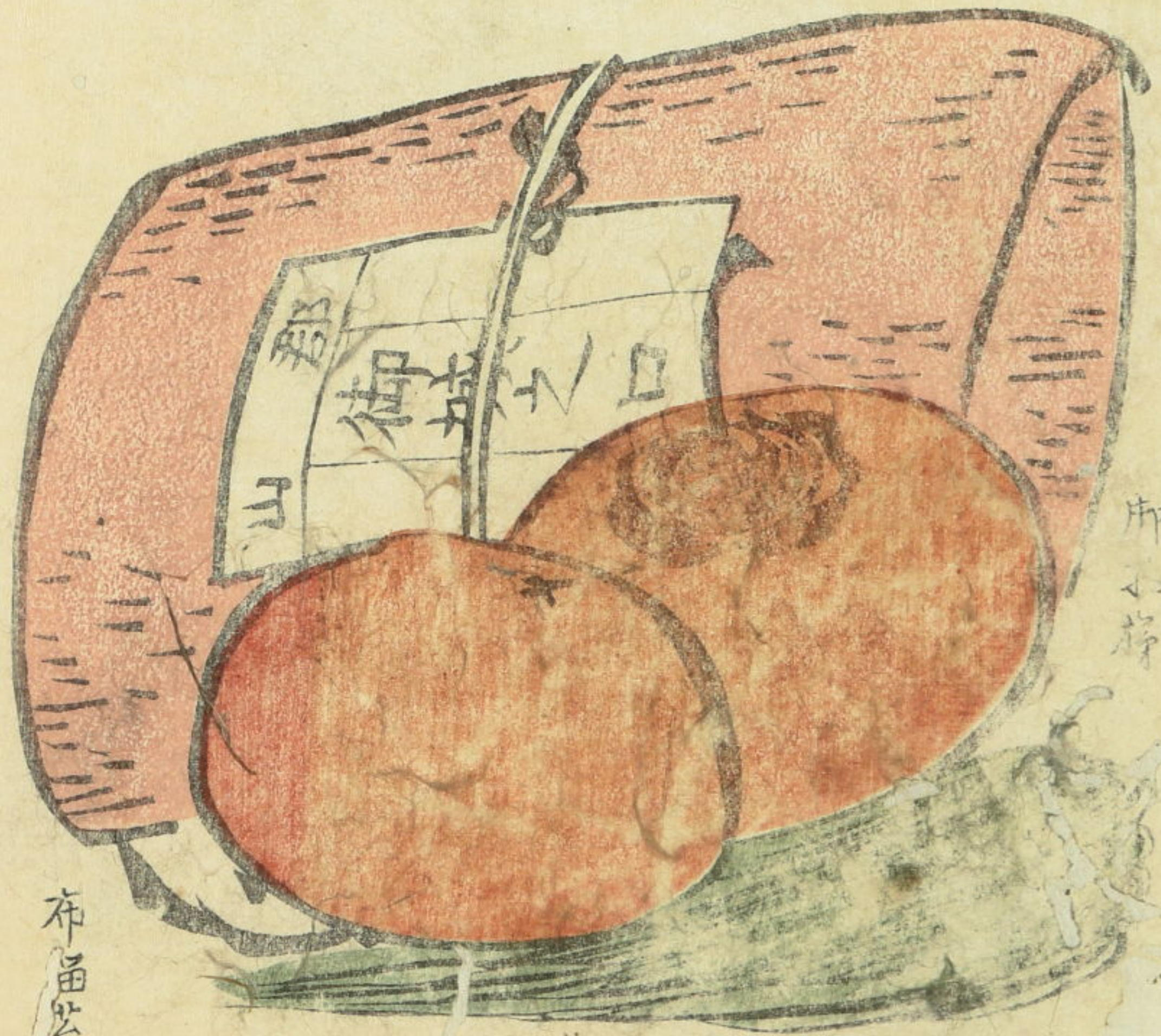
赤人も

子作れらる

熟折る

無不章

桃處



卯小藤

布苗岩

平治

龜石



二痛の里とれといとゆる素細い  
ふれし〜〜〜〜〜

十二八

麻章

地質実て掘汲い〜の〜〜〜〜  
と〜〜あり〜も〜入〜解

十二八

力丸

十二八  
可右

宇陀幸



おん〜〜丸

二痛



也山  
 社城  
 毛園  
 流美



和  
 孝  
 貞  
 人  
 印  
 印

余亦まて名はきつれ帝  
 いんほく一賣りの流あり  
 と一巾うららん

十六  
 休花  
 寸松





嵐山

浪速

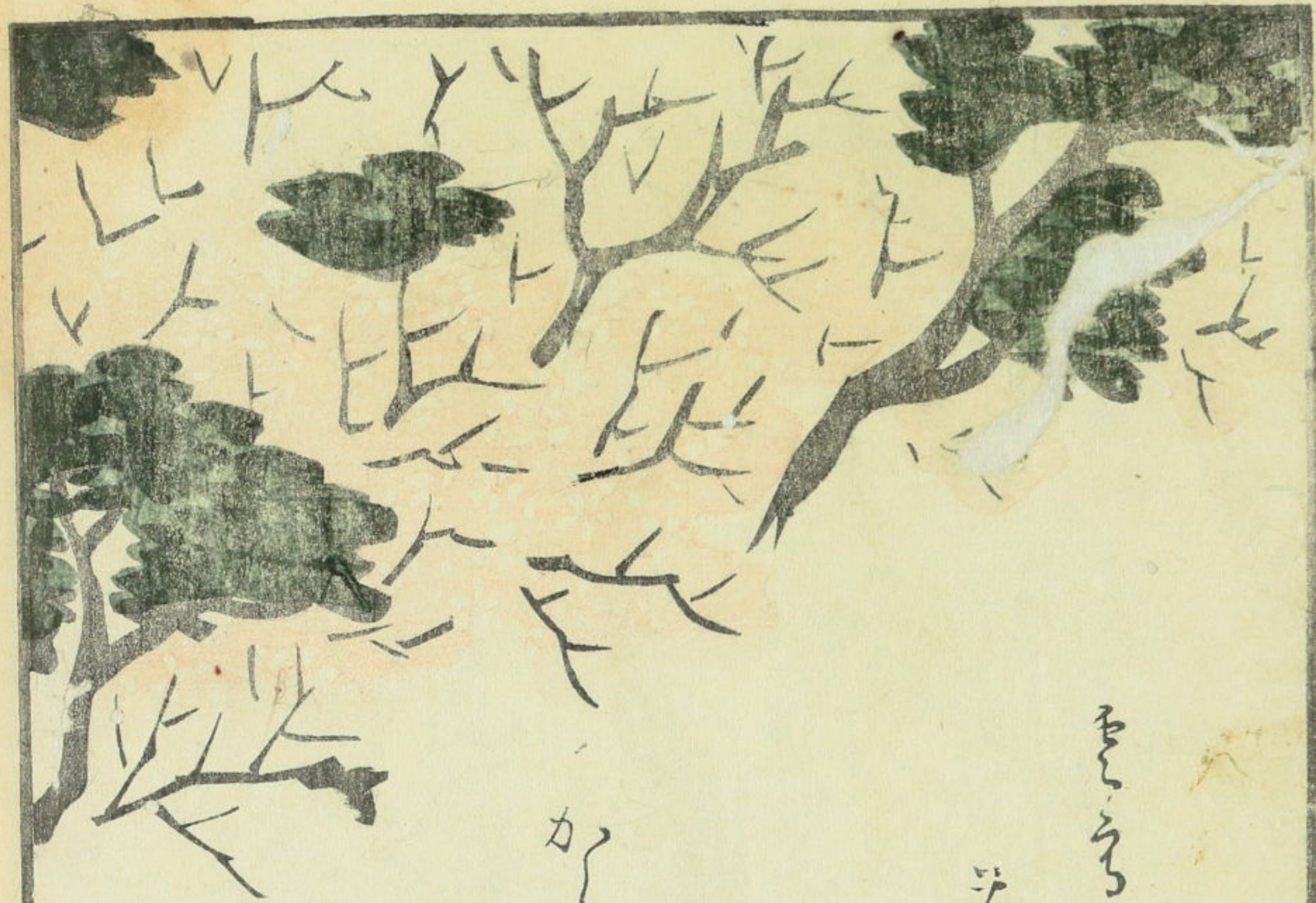
天山



ほろよやまのこころは  
 夏一死をや三つ節の  
 嵐山こゝも  
 浪速 雪頂齋桃苗  
 花のながいひもまたさの  
 けしやうふのぬるの  
 糸の一め

浪速

砂角



まろく風絶て

糸のけしやうふ

懐良

かゝるえんせらや

糸のあししやゆ

ほろれさう?

うしろんかまの

浪速 鉄捨子



言ふ富

サヌキ津田

魯州

よりの志保の

サヌキ高松

漱石

の  
後月搗

後月搗

吐くぬ玉

り

や

三

可右

月雪や花もももるこお家嵐の山とむこふりてそ  
花ももももるこお家嵐の山とむこふりてそ

醉月

ふ代終へそ龜の尾山おむふもふいなるそら嵐山

田勢

昔世よりさかりにたの都なりたくひあししれおのけい

子行

月の懐ふけおのめとふかよさそ嵐の山おのたの雪

笹丸

五十八

せ織志けし人暖里の裏より  
虚を候のそことかひて  
出く候ふ

浪速  
力丸

たぐらひのちよらも  
空丸

よららぬ暖里の  
まらぬふさふおちて  
たいとて

人のけらる暖里の  
るたもあつて候の  
まらぬふさふおちて

陶青



そり候

花とたふ

浪速  
高松





こぬしれ

あいのしるし

柳うね

こゝろに和寺の

さうらう有る

あひふて後と

あまの

貞古

玉英十景画

可右

辰香

景山玉耀

西陣織物  
しるし



阿加

月虎

出口の折

燕子花

揚枝のちかまのしるし  
吹風はこりく柳のしるし  
せふなり

せんせいのもくせいのしるし  
おらの柳ハ金巻れしるし

笹丸



浪華

東岳園

人々の皆とて  
賞顔いぬ時  
かしら草なり

浪速 須山鬼澄

東寺まら  
ひのやりと  
味やおも

青娥

東寺  
かしら



あけくら

千本

あま

方水

あま

潮水

あま

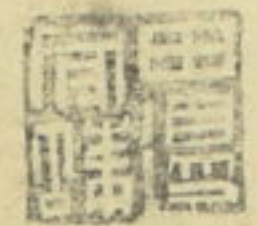
あま

あま

あま



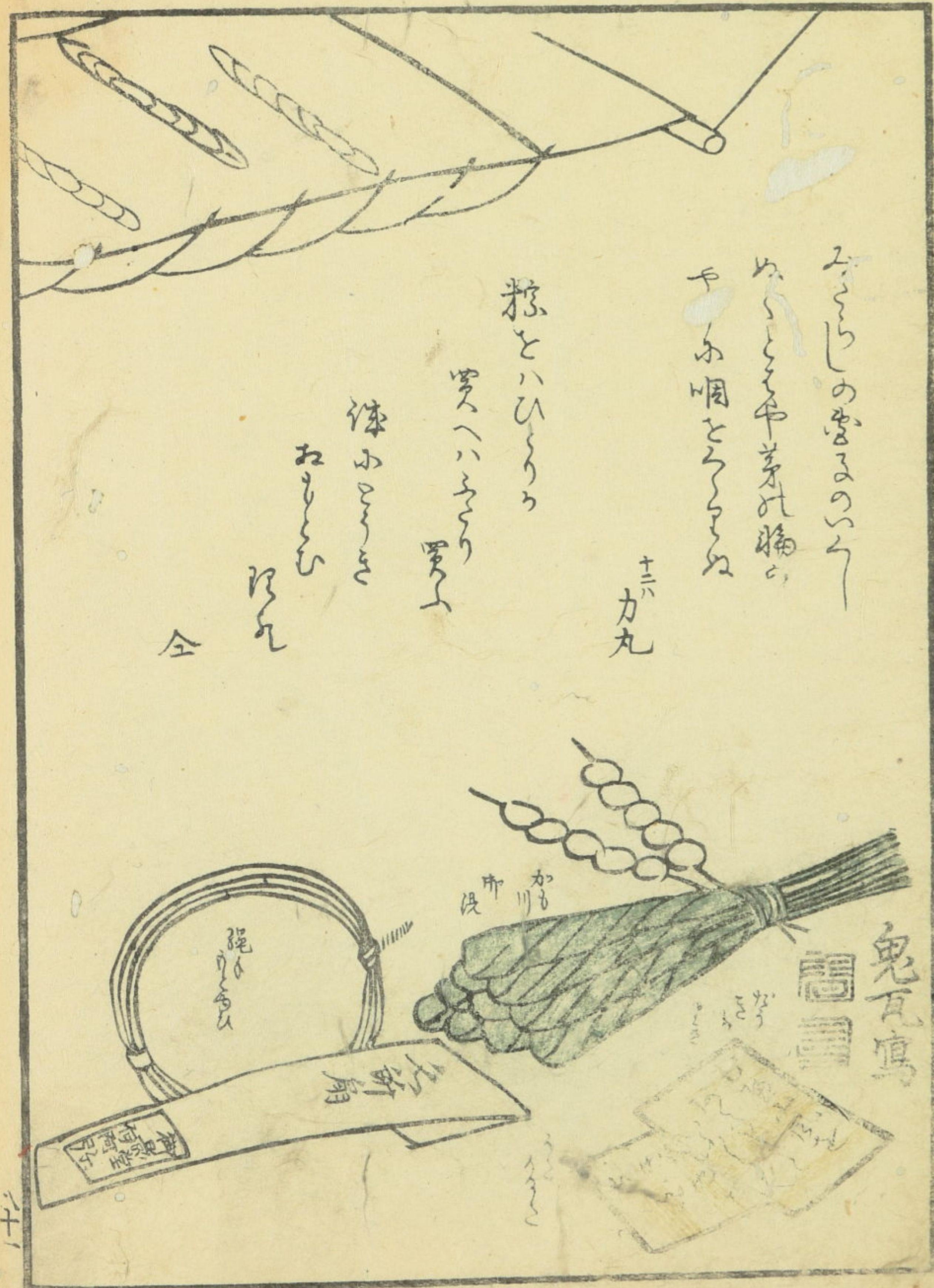
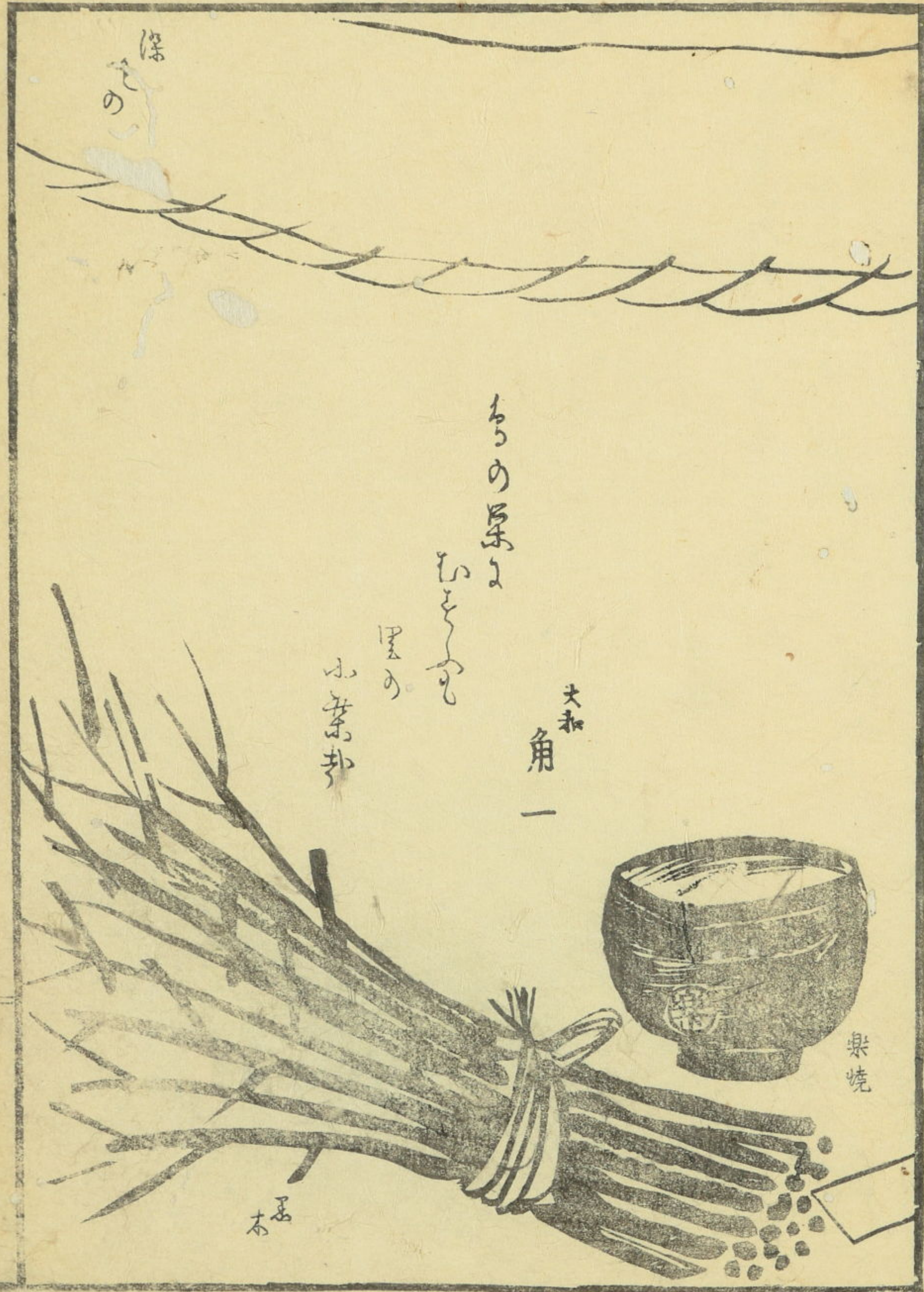
柳堂



主生 菜

京 ねき







浪巻

松葉



眞途もろの紙園代

茶店もいつとてこても

かうせんの家

茶雲

風をれちりの粉

な〜んちとあいと

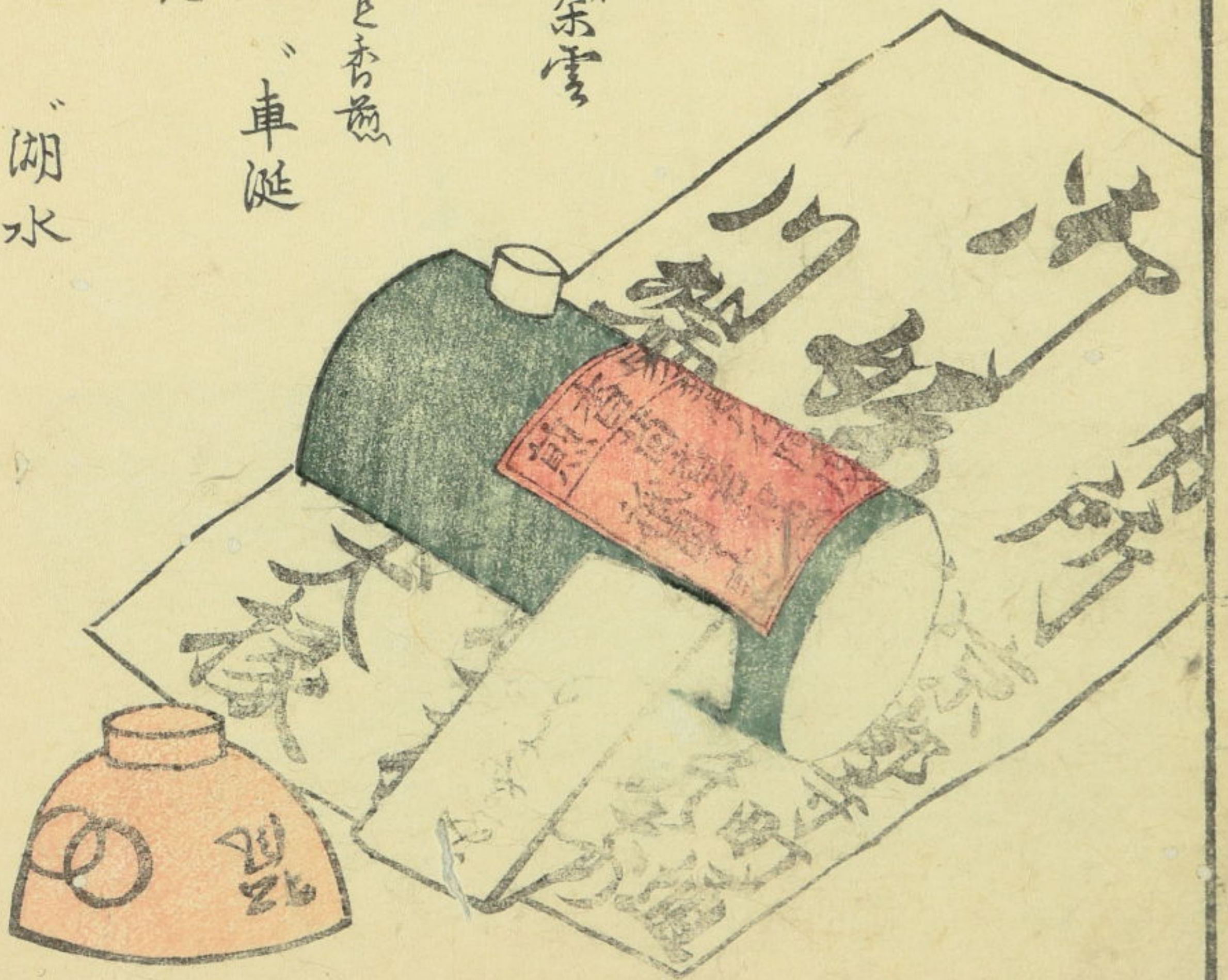
諸方へ〜〜紙定香煎

車涎

富士た〜ぬ敷たよ〜い名も〜ん

てとハ駿河治あまハ陸奥

湖水



秋の蝶

う〜〜りおんこ

ら  
ん

お

十一  
共流

う〜〜ち萩

浪巻

杉  
流  
馬



丸山  
の  
山



ナニ  
春喜園  
印

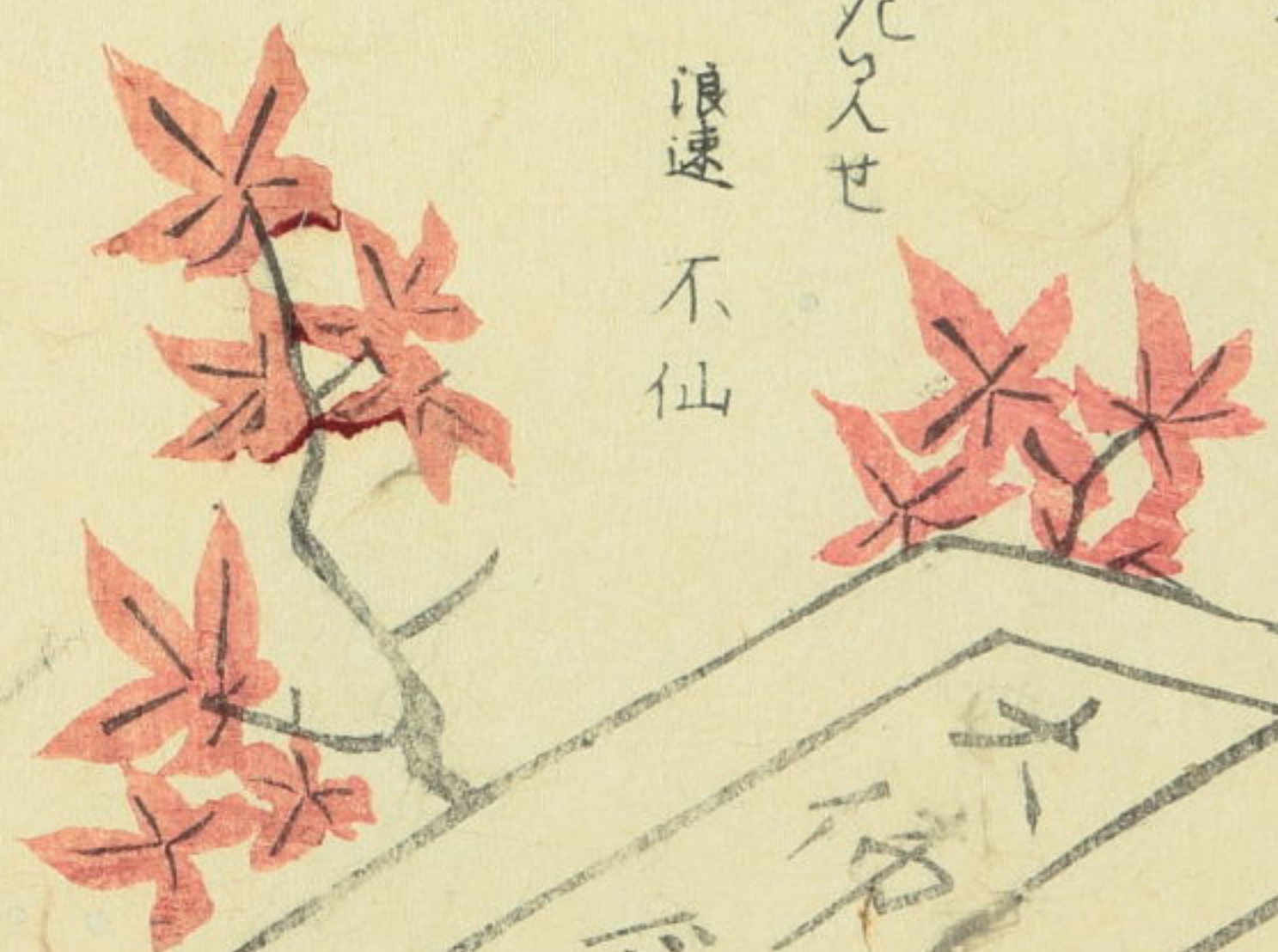
耳塚のほろりたるもな

園のしき

大佛様の

まじりてえせ

浪速不仙



通天丸

父母  
ハ下平  
の

後

ふろりいろした

名ハ通天丸

真古

ナニ  
河丸

焼酎小蒸り大蒸り

らんふう入の清水系碗

手薬ふと系れる際と  
青砥

らんもの土やいり  
乳ハ清り

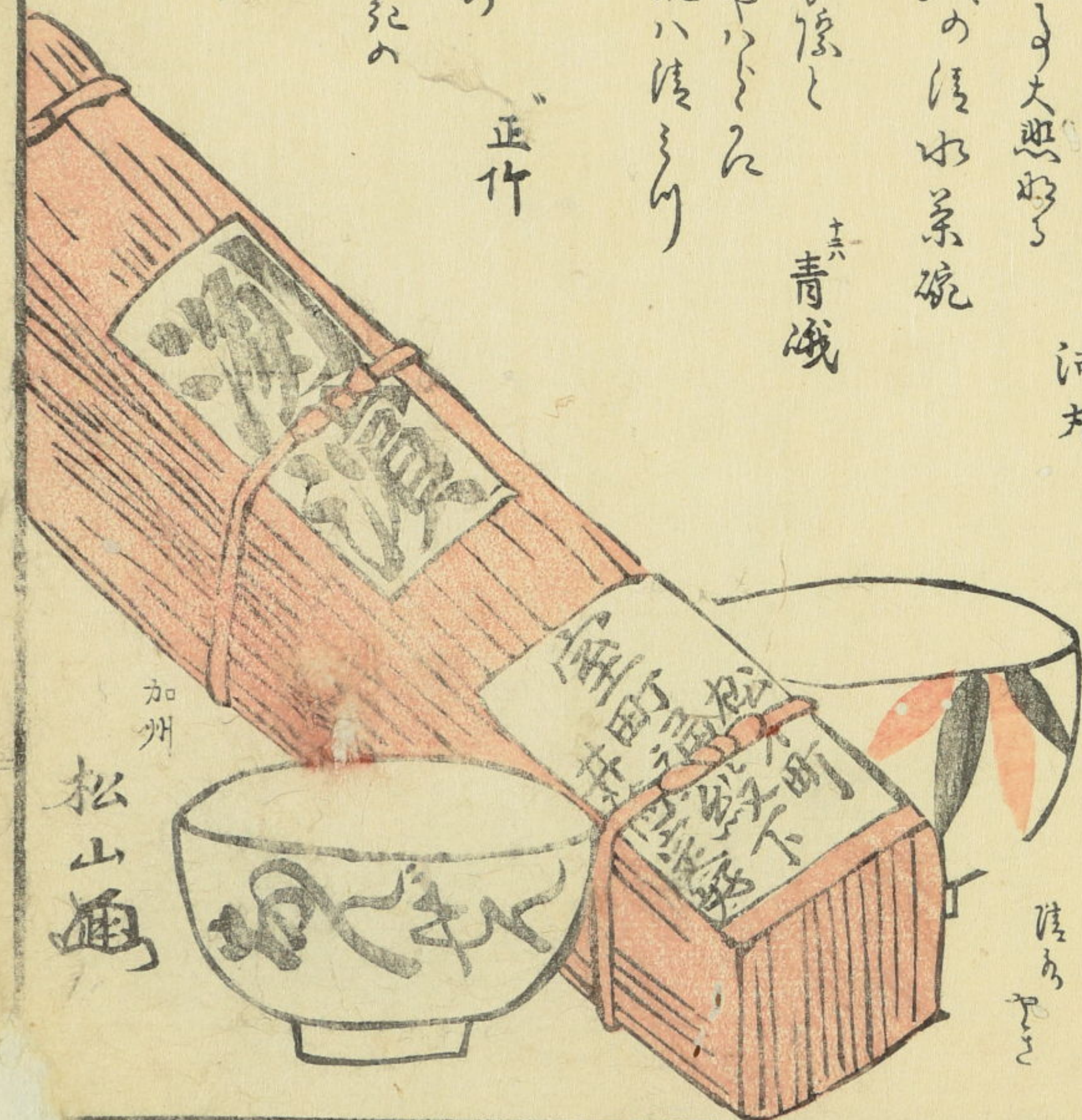
南経ちて

答ふと

正竹

からー

初め通



加州  
松山通



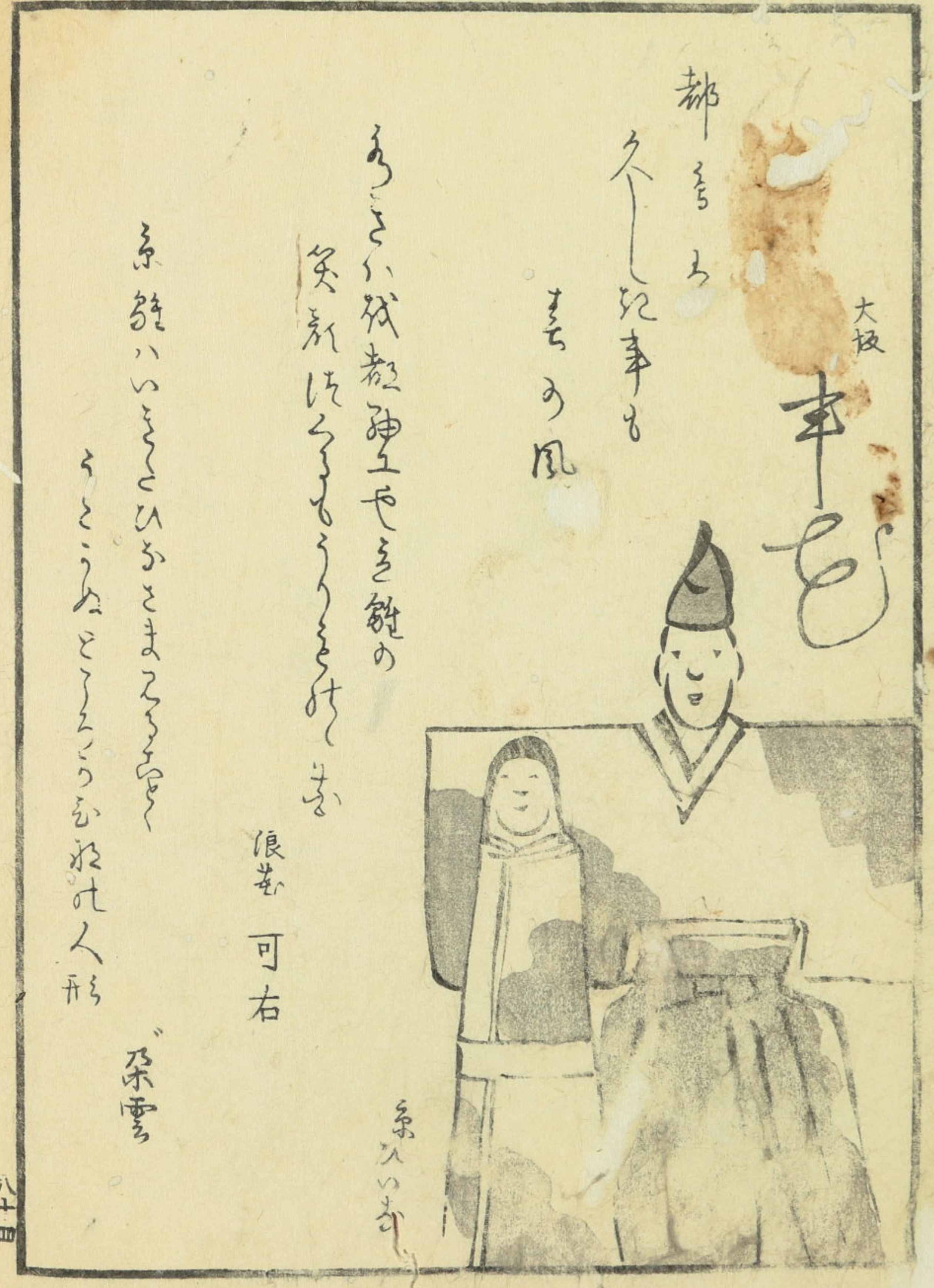


ふたつふ  
 三つ三つせ  
 猫も  
 土れ  
 西り

浪速  
 船

浪者  
 挿  
 印  
 印

伏見  
 人形



都  
 久し  
 大板

車  
 七

まの風

あまの成程神工やまの能の  
 笑新はるるもくもけ

浪者  
 可右

系能いひひふとま  
 くとうふとくこうむねの人形

乃采雲

系  
 八の



ふきやもおとしぬ伏水屋し  
か・らまお井のまやらしきふ

浪速 砂角

さきさきさきさきして

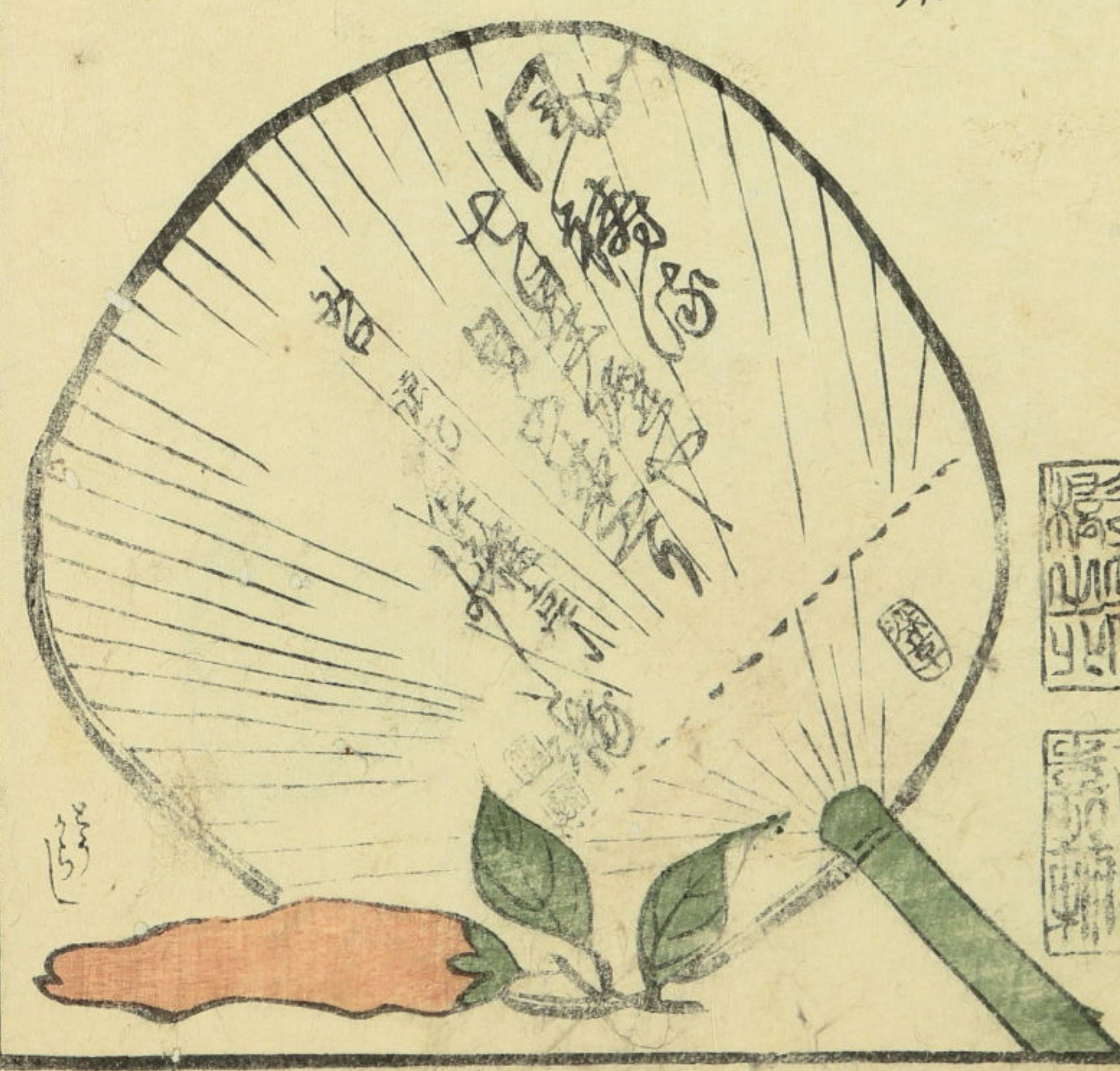
とらまらしくみおま

浪速 芙蓉

きつねのまき

なまふや唐し

浪速 花揃



やうやくや日利小好系と傘ひろけ  
のまは 花揃



大和 河洲

たけのこ 梅のふ

長門のあま月ね

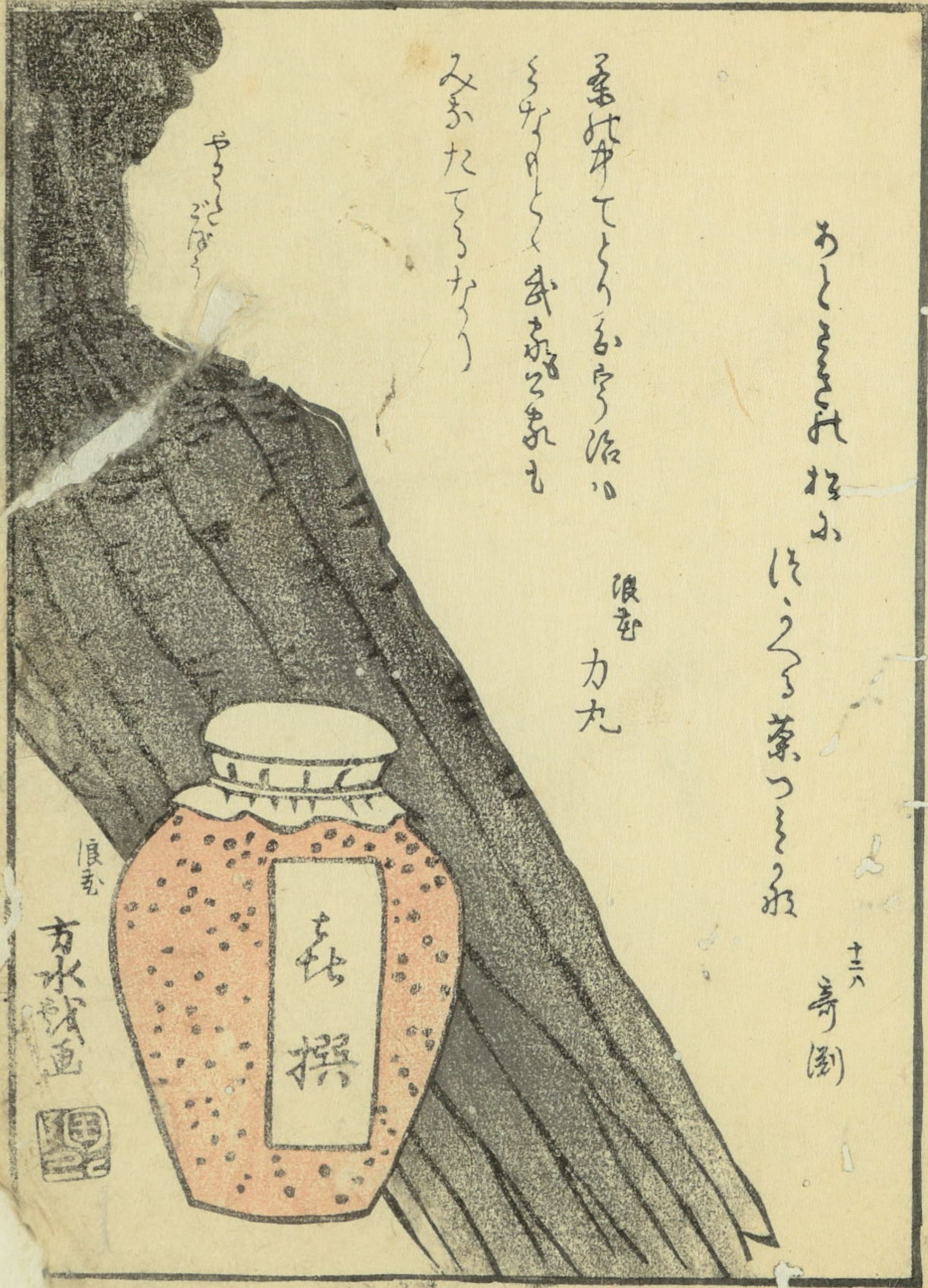


梅のふ いろふね草

長門 茶洲







あしとらねねふ  
 春撰  
 春撰  
 春撰  
 春撰  
 春撰

浪  
 力丸

はる  
 春撰

三六  
 春撰

浪  
 方水  
 春撰



伏見梅

梅  
 春撰

浪  
 春撰

豆腐  
 春撰

三六  
 春撰

春撰  
 春撰

春撰  
 春撰

春撰  
 春撰

三六  
 春撰

春撰  
 春撰



辰香

# 方水亭



山吹色

深江

巴丈

水は流

添て終つ垣不れ

醉月

たけハ低々とし

くハ紙すハあし

井出の心

山吹の

うらうら新よ終つよの

くも白く井よれ水

昭府



かろ

井山吹

実のふいがかれてさつと井よの里ひのえつり終つ山吹  
 根引く霜の花も跡々も色低れいろ小井よの山吹  
 方便のさうと井よの山吹をさうとにうけのさうと  
 実のぬくと古すいひめて川浪よ花のえさうとうらうら  
 流るるくも名もさうとハ千重なまらしたる井よ山吹  
 山吹のつゆも井よ山吹山吹いろもさうと人の花の色も  
 心比しおひのさうと山吹のめて川つらるれ跡々々  
 種えせぬ其品もれ玉川よさうとさうと井よれさうと  
 言入の顔向く井よのさうとさうとさうと種奴のさうと山吹  
 花のさうとのふれとさうとさうとさうとさうと井よれさうと  
 きたれは物いろれもさうと今群集してえにみその山吹

一六八 泉雲  
 一六九 槿花  
 一七〇 空丸  
 一七一 庭茂  
 一七二 銭丸  
 一七三 柵葉  
 一七四 一雛  
 一七五 青蛾  
 一七六 魚鱗  
 一七七 廉幸  
 一七八 吳房



後序

周禮畫繪事雜五色後素功云秦漢以迄  
遂矣以今時畫臨觀之則自白而變未竟  
使眾人入青眼中也大凡風流三昧伎倆  
不可猜算就中學文之道艱矣險淡容易  
不可攀焉琴棋茶花亦是一風流而平坦  
不苦切恨有不免俗趣者書畫之為物雅  
俗相弄既然書者簡率而雜以意墨者多  
攻而多慣習只專擬諸形容也至其妙境  
別洗滌煩腦奪其精神及兵日娛則閉戶

齊寔何厭之可謝在抗既不畫役人確哉  
此言屬東野山人編玉華內名產集昂白  
紙上受彩色且顯以諸彥之詩文園風也  
書畫亦合心也小生一閱之則近雅而不意  
俗之聚毫端風致且餘私想當是芟來佳  
士沈閨女子人卧遊裝具與然列令體  
看役人之常亦風流伎倆佳趣不少耳果  
東野宿意竟使眾人入眼中焉  
文化八年未歲仲秋日

浪華居江兔瓦道人題



浪華

大原東野民聲軒

文化十年癸酉十一月新刻

塩屋平助

合

塩屋長兵衛

河内屋善兵衛

梓

河内屋太助

大阪書林



